

明治維新「志士」像の形成と歴史意識

——明治二五・二六年靖国合祀・贈位・叙位遺漏者問題をめぐって——

高田 祐介

〔抄録〕

本稿では、従来ほとんど注目されることのなかった、明治二五・二六年における明治維新「志士」の靖国合祀・贈位・叙位遺漏者問題に焦点をあてた。靖国合祀処分での「国事殉難」、そして贈位・叙位措置での「勤王」の枠組みや価値基準を実証的に解析することで、当該期に維新を振り返った際に国家・地域双方

が抱えた課題ないしこれに纏わる歴史意識の動態を明らかにした。

キーワード 明治維新、志士、歴史意識、靖国合祀、贈位

はじめに

「癸丑」以来、といういわば定型化された表現は、近代日本において維新の始源を指す概念として広く社会に浸透し、その変革を端的に想起させる言葉であった^{〔1〕}。むろん、これは嘉永六年（一八五三）のいわゆるペリー来航に始まる、維新の輻輳する政治ないし社会変革を表すものだったが、この「癸丑」以来「王事」に尽し、あるいは維新の半ばで斃れた者たちを「志士」と称して特に高める行為は、当然ながら当初、政府のもとで進められる、政権の形成に資した人材の称揚と

結びついた政治的施策であったと言って良い。それは具体的には、明治八年（一八七五）に内務省が東京招魂社つまりのちの靖国神社への合祀を標榜し、全国の府県へ維新の「殉難者」の履歴を調査・提出させることを企図して出された達^{〔2〕}により、全国規模で本格化した。

例えば、この達に基づく最初の靖国合祀者——明治十六年（一八八三）の武市半平太ほか八〇名——を出した高知県についてみれば、すでに前稿で述べたとおり、地域の側では達に基づいて、維新时期に対立した諸勢力双方の人物あるいは藩法を犯した者などをもその対象としながら調査を進め、明治八年十月から同九年（一八七六）十

月にかけ、履歴書に取り纏めて内務省へ提出していた。いうなれば、「殉難志士」の広い掬い上げに努める地域側の認識がこれらの動向から看取されたが、一方で国家側は結果的にこのような地域からもたらされた「殉難者」のうち、「勤王」という価値基準に適合した履歴の人物のみを精査し「国事殉難者」として認定・合祀処分を行ったのであった。

ところで、これら靖国合祀とならぶ国家による維新「志士」の顕彰施策の柱のひとつに、贈位があげられる。この贈位に関しては、靖国合祀処分にみた明治初年よりの地域に対する人物の掘り起しというべき具体的政策こそ、その実相が掴めないものの、羽賀祥二氏が指摘しているごとく、明治二年（一八八九）二月の憲法発布に伴う西郷隆盛・藤田東湖・佐久間象山・吉田松陰への一種の大赦の意を含む贈位を先駆けとして、明治四年（一八九一）四月から十二月にかけて久坂玄瑞・高杉晋作・真木和泉・武市半平太・吉村寅太郎・坂本龍馬・中岡慎太郎ら一五六名が一斉に贈位の対象となった。彼らはまさに「勤王殉国の士」⁵すなわち「勤王志士」として国家認定の維新功労者とされたのであった。先の靖国合祀処分との関係性を見通しておけば、概ね合祀処分を受けた「殉難志士」のうちのさらに一部が贈位の対象となり「勤王志士」として、国民の範とすべき歴史像が形づくられ社会へ周知されてゆくのである。

しかし、このような靖国合祀処分・贈位措置という何れの顕彰施策においても、注意すべきは、明治十六年から同二十四年にかけて国家側が認定を行った人物の陰で、国家に掬い上げられなかった「志士」た

ちが、明治中期以降、全国の府県に遍在し続けたという点であろう。それは国家側の想定していた範囲や規模を上回って、地域側が多数の「志士」に纏わる実績を発掘した結果でもあった。同時に、地域側はいわゆるこれらの「遺漏者」をいかに一人でも多く、国家へ包摂させ功労者として認定させるのか、という点に腐心し政府へ働きかけを行うようになる。特に靖国合祀処分のそれを契機として、おそらくこれと連動し贈位措置および維新の生存者に対する叙位に関する「遺漏者」が問題化されるのが、明治二五・二六年（一八九二・一八九三）のことであった。従来ほとんど注目されることのなかったこの事象を、本稿では「明治二五・二六年靖国合祀・贈位・叙位遺漏者問題」と称して取り上げ、維新を振り返った際に国家・地域双方が抱えることとなった当該期の課題について焦点をあてたい。それは延いては、「志士」顕彰に基づく歴史像の形成と、これをめぐる多様な歴史意識の様態解明に繋がる考察の試みとなろう。なお、本稿においては現時点でその総体を掴み得る高知県、つまり旧土佐藩の「志士」を事例の基軸に据えて考察を進め、他の県（旧藩）との関係性をも明らかにすることで、この「遺漏者問題」の相対化に努めたいと思う。

一 靖国合祀遺漏者問題

はじめにも述べたように、明治八年における全国府県への、その名も「湮滅」し「祭祀」に漏れたような者まで取り調べよ、との内務省達を受け、地域では「殉難者」の掘り起しと履歴書の作成にあたり、

殊に高知県では同年より翌年にかけて四度に分けて総計一〇五名分の履歴が内務省へ提出されていた。⁷⁾ 実は提出された履歴書は、個別の事績の詮議のため政府内の複数の省にまたがるかたちで、回付されていたことが、次の明治十四年（一八八一）四月十五日付けの内閣書記官より宮内省あての照会から窺える。⁸⁾

嘉永癸丑以来殉難死節ノ者履歴書（中略）各府県ヨリ差出候分、内務省ヨリ追々当官へ差出有之候書類先般総テ御廻シ致シ、右事跡取調ノ儀ハ御省ニ於テ御着手相成居候事ニ付、可成ハ早々御取調相成候様致シ度（中略）差向別紙武市半平太以下八拾名ノ者履歴書御廻付、御省御意見等モ御上申相成度

右にみえるとおり、各府県から内務省へあてて提出された履歴書は、順次、内閣書記官にもたらされ、さらに細かな事績調査のため宮内省へも回付されており、内務省―内閣書記官―宮内省間で「殉難者」の履歴内容について、合祀適否の判断と調整が進められていたのである。最終的には陸軍省・海軍省との協議を経て合祀に至るが、維新「殉難者」に関する全国一斉調査・靖国合祀という初の施策では、その規模とあいまって、このような政府内の複数間の省による横断的な連携が必要とされた点に、ひとつの特徴が見出せる。換言すれば、国家による顕彰に際し平準化された枠組みをいかに形づくり適応してゆくのか、との政府内における模索の過程ないし動向としてこれらを位置づけることが可能であろう。

また、この照会が宮内省にあてて差出された経緯については、明治十三年（一八八〇）九月の時点で高知県士族・濱田八束と島村雅事が

県令に対して行った、県下の大島岬招魂社への勤王党関係者八〇名の合祀許可を求める請願の中に、内務省達に基づく靖国合祀に関する確認と念押し of 文言が含まれていたことを受け、県側が改めて内務省へ向け大島岬招魂社合祀許可・靖国合祀の両件を問い合わせた結果、⁹⁾ 早々の靖国合祀処分詮議が政府内で問題化されていたのであった。先の内閣書記官よりの照会を受け、宮内省側は四月二九日付で左のように回答していた。¹⁰⁾

右ハ先般以来於当掛（文学御用掛―筆者註）着手、先ツ全国殉難者郷貫姓名等ハ詳細取調致編録候へ共、事蹟伝記等ノ詳細ニ涉リ候儀彼是参照毫末ノ差誤無之様精密取調度候ニ付、未タ成功ノ場合ニ至ラス候（中略）武市以下八十名履歴中殉難事実浅深厚薄ハ有之候へとも、渾而疑敷廉ハ相見得不申候

つまり、全国から寄せられた履歴につき「精密」な調査を進めていたため、調査全了の時期が確定できない見通しであったことがわかる。但し、武市以下八〇名に関しては事績に疑わしい点がなく、合祀適合との判断がなされていた。この回答に基づき、内閣書記官は主管参議・寺島宗則へ五月七日付で「精査全了ノ後、一斉ニ御処分儀ハ未タ時期予定難相成ニ付、去ル十一年十一月旧米沢藩士族故堀尾啓助松本誠蔵等東京招魂社へ合祀被仰付候特例ニ比準シ、此際半平太以下八十名ノ者靖国神社へ合祀可仰出哉相伺候」との伺いを提出するなど、¹¹⁾ 特例による合祀が政府内で検討されていたのである。事実、「太政類典」には五月二七日付で太政大臣より陸・海軍省へあてられた、八〇名の「合祀被仰付候例ノ通可取計」との達、そして高知県へ同様に

「今般靖国神社へ合祀被仰付候条」¹³との達がみえ、特例での合祀がほぼ現実化していたことが窺える。なお後述するとおり、後年に作成された高知県側の史料（「勤王者調」）では彼ら八〇名の靖国合祀を、明治十四年（一八八一）五月二七日とする履歴書類が残されており、実際に県へこの達もたらされた結果、地域側では明治十四年合祀との認識が定着していた形跡がある。

しかしながら、結局、彼らの合祀が実現するのは、二年後の明治十六年（一八八三）五月のことであった。¹⁴二年間の空白について、明確な理由を示す史料は見当たらないが、明治十四年六月二日付の陸軍歩兵中佐児島益謙が内閣書記官にあてた照会には「今般御達之趣（武市以下八〇名合祀の達―筆者註）武市半平太以下之者ハ右御達（明治八年の内務省達―筆者註）之部分ニシテ全ク是ニテ相済候哉、若然ラス尚此他陸続合祀之御沙汰有之候テハ同社合祀之都合モ候」との懸念が述べられており、¹⁵特例の範疇をめぐる懸念と靖国神社側との調整の問題が生じた結果、全国の「殉難者」に関する調査全了の目途がついた時点で一斉の処分を行う、という当初の方針が改めて維持され、特例を回避させた可能性があろう。明治八年の内務省達に基づく、特例措置を除く、靖国合祀の初例となった武市以下八〇名は土佐勤王党関係者のみであり、彼らは文字通り「勤王」の価値基準に適用「国事殉難者」となったのである。

この後、高知県の旧土佐藩関係では明治二十年（一八八八）五月に田所騰次郎・島村省吾・近藤長次郎・真田四郎・沢村宗之丞の計五名が、先の八〇名に対する追加措置的な合祀の対象となり、¹⁶この他の府

県においても同年から同二四年（一八九二）十一月にかけて陸続と処分がなされた結果、三五〇名を超す「殉難者」が靖国へ合祀された。¹⁷政府側はこの明治二四年十一月の合祀処分を以て、明治八年の内務省達に基づく合祀を結了させる予定であったことが、次に示す明治二六年（一八九三）十月十四日付の陸軍省の記録から読み取れる。¹⁸

嘉永癸丑以来国家多事ニ際シ殉難死節セシ者、先年来追々靖国神社江合祀相成候ニ付、再昨廿四年十一月ヲ以テ殉難者合祀之義者結了之見込ニ候処、尔来各府県ニ於而合祀漏届出之趣ヲ以テ昨年来内務省ヨリ各自履歴書相添追々協議相成候

明治二四年における合祀処分結了の見通しは、翌年の各府県からの「合祀漏」殉難者に関する上申と履歴書の届出を受け、その変更を迫られていたのであった。明治二五年（一八九二）から翌二六年（一八九三）にかけて、各府県から内務省へ上申された合祀漏れの殉難者は、一四八名にのぼった（表1）。このうち高知県からは、いわゆる堺事件で切腹に処せられた箕浦猪之吉以下十一名（表1 No. 103～113）が合祀漏の殉難者として上申されていたことが知れる。これら十一名の履歴は、すでに明治八年十二月に一度内務省へ提出済みであったことから、まさに「靖国合祀遺漏者」について、地域側がその存在に着目し国家へ「国事殉難」の認定を求めて働きかけたのである。明治二五年（一八九二）十一月四日付で高知県知事・丸岡莞爾より内務大臣・井上馨のもとへ差出された上申からは、高知県側の事件に対する認識および履歴再呈にいたる地域側の状況と背景が垣間見える。¹⁹

旧高知藩士箕浦猪之吉外十一名ハ、戊辰年泉州堺ニ於テ仏国水兵

表 1 各府県上申合祀漏殉難者

	府県	内務→陸海軍照会	氏名	事績	没年	備考（内）は内務省意見
1	茨城県	明治25年 4月21日	白石平八郎	稲吉宿にて闘死	文久元年	
2	茨城県	同上	白石内蔵之進	同上	同上	
3	青森県	明治25年 3月 7日	別表なし氏名不詳	—	—	負傷の上従軍を離れ帰宅治療数年後死亡につき除外（内）
4	青森県	同上	別表なし氏名不詳	—	—	同上
5	青森県	同上	別表なし氏名不詳	—	—	同上
6	茨城県	明治26年 3月 7日	潮田新一郎	品川駅にて戦死	明治元年	
7	茨城県	同上	吉江永太郎	那珂湊にて戦死（天狗党乱）	元治元年	
8	茨城県	同上	広瀬規矩松	幕吏捕縛護送中死亡	同上	
9	茨城県	同上	石井佐介	下館にて斬首	同上	
10	茨城県	同上	常井熊次郎	水戸獄舎にて死亡	元治 2 年	
11	茨城県	同上	樫村元之介	小梅別邸幽囚中死亡	元治元年	
12	茨城県	同上	飯田周吉	那珂湊にて戦死（天狗党乱）	同上	
13	茨城県	同上	東ヶ崎浅右衛門	山方村にて戦死	同上	
14	茨城県	同上	札恒英	鹿島町宮中にて戦死	同上	
15	茨城県	同上	織田広愛	高浜村にて捕誅	同上	
16	茨城県	同上	青柳貞五郎	敦賀駅にて自刃（天狗党乱）	同上	
17	茨城県	同上	今泉丹司	同上（天狗党乱）	同上	
18	茨城県	同上	新橋米吉	那珂湊にて戦死（天狗党乱）	同上	
19	茨城県	同上	小倉勇	八丈村にて銃殺	同上	
20	茨城県	同上	館主一郎	江戸にて病死	同上	病死につき除外（内）
21	広島県	明治26年 3月 8日	唐崎常陸介	勤王の志ならず屠腹	寛政 8 年	嘉永 6 年以前死亡につき除外（内）
22	千葉県	明治26年 3月 8日	内藤孝四郎	戊辰戦争	明治元年	
23	千葉県	同上	山崎弥五右衛門	同上	同上	
24	千葉県	同上	上田浅之助	同上	同上	
25	千葉県	同上	古川滝蔵	同藩士に暗殺	元治元年	
26	千葉県	同上	杉山對軒	同藩士に暗殺	明治 2 年	
27	千葉県	同上	恵山光次	戊辰戦争	明治 2 年	合祀済につき除外（内）
28	栃木県	明治26年 3月 8日	水田録三	那珂湊にて戦死（天狗党乱）	元治元年	
29	熊本県	明治26年 3月 9日	日向彦四郎	戊辰戦争	明治 2 年	
30	熊本県	同上	坂田源助	同上	同上	
31	熊本県	同上	平田安太郎	同上	同上	
32	熊本県	同上	渡辺太次右衛門	同上	同上	
33	熊本県	同上	勝右衛門	同上	同上	
34	熊本県	同上	助八	同上	同上	
35	熊本県	同上	徳平	同上	同上	
36	熊本県	同上	常吉	同上	同上	
37	熊本県	同上	壽八	同上	同上	
38	熊本県	同上	仙助	同上	同上	
39	熊本県	同上	浅吉	同上	同上	
40	熊本県	同上	岩右衛門	同上	同上	
41	熊本県	同上	弥吉	同上	同上	
42	熊本県	同上	茂八	同上	同上	
43	熊本県	同上	熊五郎	同上	同上	
44	熊本県	同上	久兵衛	同上	同上	
45	熊本県	同上	駒蔵	同上	同上	
46	熊本県	同上	桑ノ弓	同上	同上	
47	熊本県	同上	杉田川	同上	同上	
48	熊本県	同上	常助	同上	同上	
49	熊本県	同上	源次郎	同上	同上	
50	熊本県	同上	辰蔵	同上	同上	
51	熊本県	同上	作平	同上	同上	
52	熊本県	同上	山野平八郎	長州征討	慶応 2 年	長防の役戦死につき除外（内）
53	群馬県	明治26年 3月 9日	村上俊平	幕吏捕縛斬首	元治元年	
54	福岡県	明治26年 3月 9日	石蔵卯平	天草富岡にて暗殺	慶応 4 年	
55	福岡県	同上	川庄金六美勝	戊辰戦争	明治元年	合祀済につき除外（内）

56	和歌山県	明治26年 3 月13日	榎本木酢	長州征討	慶応 2 年	長防の役戦死につき除外（内）
57	和歌山県	同上	印東新十郎	同上	同上	同上
58	和歌山県	同上	米田兼吉	同上	同上	同上
59	和歌山県	同上	栗本卯兵衛	同上	同上	同上
60	和歌山県	同上	宇井友右衛門	同上	同上	同上
61	和歌山県	同上	橋本角兵衛	同上	同上	同上
62	和歌山県	同上	野村半兵衛	同上	同上	同上
63	和歌山県	同上	銀右衛門	同上	同上	同上
64	和歌山県	同上	城本喜七	同上	同上	同上
65	岡山県	明治26年 3 月13日	岸静江	長州征討	慶応 2 年	長防の役戦死につき除外（内）
66	岡山県	同上	関屋鉦一郎	同上	同上	同上
67	岡山県	同上	妹尾三郎平	監中病死	明治 5 年	東京帝都不適當を議すにつき除外（内）
68	長崎県	明治26年 3 月14日	永尾平左衛門	佐幕党に追われ自刃	記載なし	
69	長崎県	同上	倉掛安之允	勝井党の為に刺され自刃	記載なし	
70	長崎県	同上	高尾金左衛門	勝井党の為に屠腹	記載なし	
71	長崎県	同上	高尾傳	勝井党の為に暴殺	記載なし	
72	長崎県	同上	高尾猪吉郎	自刃	記載なし	
73	長崎県	同上	阿比留源之進	勝井党に縛せられ死亡	記載なし	
74	長崎県	同上	吉田志津馬		記載なし	事実不明のため除外（内）
75	長崎県	同上	國府三左衛門		記載なし	同上
76	長崎県	同上	佐治謙之丞		記載なし	同上
77	長崎県	同上	吉村奎之允		記載なし	同上
78	福島県	明治26年 3 月14日	西貫之助	水戸城下に戦死（天狗党）	元治元年	
79	福島県	同上	植田金助	戊辰役奥羽追討従軍戦死	慶応 4 年	
80	福島県	同上	上平綱五郎	戊辰役奥羽追討従軍戦死	慶応 4 年	
81	福島県	同上	山際久太夫	禁門の変	元治元年	禁門守衛戦死につき除外（内）
82	福島県	同上	中澤鉄之助	禁門の変	元治元年	同上
83	福島県	同上	窪田伴治	禁門の変	元治元年	同上
84	福島県	同上	鈴木武司	禁門の変	元治元年	同上
85	福島県	同上	小原治八	禁門の変	元治元年	同上
86	福島県	同上	高橋猪三郎	禁門の変	元治元年	同上
87	福島県	同上	高橋勝右衛門	禁門の変	元治元年	同上
88	福島県	同上	馬場八郎	禁門の変	元治元年	同上
89	福島県	同上	降矢寅吉	戊辰役奥羽追討従軍戦死	慶応 4 年	明治 2 年合祀済につき除外（内）
90	愛知県	明治26年 3 月15日	鳥居林七	那珂湊屯集浪士追討中戦死	元治元年	水戸藩国難の節追討の命を受け戦死につき除外（内）
91	愛知県	同上	里見養夫	禁門の変後死亡	元治元年	殉難の事蹟不詳につき除外（内）
92	愛知県	同上	坂田甚作	事蹟不詳	記載なし	同上
93	山口県	明治26年 3 月17日	西郷甚八	長州征討	慶応 3 年	
94	山口県	同上	中村留吉	藩内党議沸騰の際戦死	慶応元年	
95	山口県	同上	利吉	藩内党議沸騰の際戦死	慶応元年	
96	山口県	同上	青木與三郎	禁門の変	元治元年	
97	山口県	同上	津田愛之助	禁門の変	元治元年	
98	鹿児島県	明治26年 3 月22日	中村寛左衛門	江戸藩邸騒動の際幕吏に捕われ佃島にて死亡	慶応 3 年	出獄の命を得て後病死するものにつき除外（内）
99	鹿児島県	同上	野村藤七郎	禁門の変	元治元年	禁門守衛戦死につき除外（内）
100	鹿児島県	同上	牧元丈助	禁門の変後病死	元治元年	禁門の変後病死につき除外（内）
101	鹿児島県	同上	坂本佐次右衛門	禁門の変後病死	元治元年	同上
102	鹿児島県	同上	菊池竹庵	戊辰戦争	慶応 4 年	明治 2 年合祀済につき除外（内）
103	高知県	明治26年 3 月24日	箕浦猪之吉	堺事件	明治元年 (慶応 4 年)	
104	高知県	同上	西村左平次	同上	同上	
105	高知県	同上	池上弥三吉	同上	同上	
106	高知県	同上	大石甚吉	同上	同上	
107	高知県	同上	松本広五郎	同上	同上	
108	高知県	同上	勝賀瀬三六	同上	同上	
109	高知県	同上	山本哲助	同上	同上	
110	高知県	同上	森本茂吉	同上	同上	
111	高知県	同上	北代健助	同上	同上	

112	高知県	同上	稲田貫之丞	同上	同上	
113	高知県	同上	柳瀬常七	同上	同上	
114	北海道庁	明治26年 3 月24日	十時傳次郎	戊辰戦争負傷治療中死亡	明治 2 年	
115	北海道庁	同上	観行坊事森監物	戊辰戦争の際賊軍中にて自殺	慶応 4 年	
116	東京府	明治26年 3 月30日	松脇後左衛門	天狗党	元治元年	
117	東京府	同上	松田東五郎	藩主譜責橋本左内卿因赦免を井伊直弼へ上書後自殺	安政年間	
118	東京府	同上	野村勘兵衛	禁門の変	元治元年	禁門守衛戦につき除外（内）
119	東京府	同上	長谷川八郎左衛門	長州征討	慶応 2 年	長防の役戦死につき除外（内）
120	東京府	同上	小林婦太郎	長州征討	慶応 2 年	同上
121	東京府	同上	本間精一郎	京都にて暗殺	文久 2 年	事蹟疑義に渉るにつき除外（内）
122	新潟県	明治26年 4 月 5 日	佐藤助右衛門	戊辰戦争中負傷死亡	慶応 4 年	
123	新潟県	同上	佐藤九之助	戊辰戦争中負傷帰宅治療中死亡	慶応 4 年	
124	新潟県	同上	五十嵐愼吉	戊辰戦争従軍中病死	慶応 4 年	
125	新潟県	同上	小川藤左衛門	戊辰戦争従軍中病死	慶応 4 年	
126	新潟県	同上	安藤作三右衛門	戊辰戦争従軍中病死	慶応 4 年	
127	新潟県	同上	長谷川鉄之進	京都にて病死	明治 4 年	平常の病死につき除外（内）
128	新潟県	同上	長谷川甚兵衛	戊辰戦争中賊軍捕縛斬殺	記載なし	遺族居所不明事蹟不詳につき除外（内）
129	新潟県	同上	五十嵐伊織	大村兵部太輔襲撃の党与	記載なし	兵部太輔襲撃の党類につき除外（内）
130	新潟県	同上	吉村権左衛門	伏見役後桑名藩主を諫め後横死	慶応 4 年	横死の事故不明瞭につき除外（内）
131	新潟県	同上	長沢平左衛門	戊辰戦争中負傷死亡	慶応 4 年	鹿児島県申出により合祀済につき除外（内）
132	新潟県	同上	川上作治郎	戊辰戦争中負傷死亡	慶応 4 年	同上
133	滋賀県	明治26年 4 月13日	西澤又兵衛	戊辰戦争戦死	明治元年	
134	滋賀県	同上	鈴木亀五郎	戊辰戦争中罹患病死	明治 2 年	
135	滋賀県	同上	高島善之助	戊辰戦争中罹患病死	明治 2 年	
136	滋賀県	同上	中西志津治	戊辰戦争中罹患病死	明治元年	
137	滋賀県	同上	藤田廣造	戊辰戦争中罹患病死	明治 2 年	
138	滋賀県	同上	小林閑治郎	戊辰戦争中小千谷に死	明治 2 年	
139	滋賀県	同上	井上金蔵	戊辰戦争中罹患病死	明治元年 カ	
140	滋賀県	同上	清水文吉	戊辰戦争戦死	明治元年	明治 2 0 年合祀済につき除外（内）
141	秋田県	明治26年 4 月19日	水主 嘉助	戊辰戦争中軍船破船溺死	記載なし	
142	秋田県	同上	農 孫兵衛	戊辰戦争中船乗込み行方不明	記載なし	
143	秋田県	同上	船頭 與左衛門	同上	記載なし	遺族絶家事蹟不詳につき除外（内）
144	秋田県	同上	清忠右衛門	戊辰戦争中罹患婦家死亡	記載なし	従軍を離れ婦家病死につき除外（内）
145	秋田県	同上	吉五郎	戊辰戦争中破船溺死	記載なし	明治 2 4 年合祀済につき除外（内）
146	熊本県	明治26年 4 月25日	濱治七郎平	長州征討戦死	記載なし	長征の役戦死につき除外（内）
147	岡山県	明治26年10月10日	瀧善三郎	神戸事件	慶応 4 年	
148	長崎県	明治26年10月16日	吉野数之助	魯西亞軍艦防禦中負傷死亡	文久元年	

典拠：防衛省防衛研究所蔵「壹大日記」（陸軍省一壺大日記－M26-10-12）より作成。

ヲ銃撃シ、為メニ死ヲ賜ヒタル者ニ候処、今般靖国神社江合祀之儀土居盛義ヨリ願出ニ付取調ルニ、当時水兵ハ市中横行狼藉ヲ極メ遂ニ我兵隊ニ向ヒ発砲ノ上隊旗ヲ奪フニ至レルヲ以テ、守衛ノ職務上已ヲ得ス之ヲ銃撃シタル次第ニテ（中略）国家ヲ重スルノ至誠ヨリ出タルニ相違無之儀ト存候ニ付、特別御詮議ヲ以テ同社へ合祀ノ栄典ヲ賜リ候ハ、独リ死者ノミナラズ遺族ニ於テモ弥天恩ノ渥キヲ感戴可致存候

ここに示されるとおり、そもそも堺事件とは新政府の成立後間もない慶応四年（一八六八）二月、仏国軍艦から派遣されて堺港測量を行っていた小艇の水兵が同港へ上陸し、これをとどめた土佐藩兵が発砲したため十一名が死亡、仏国側と外交問題に発展し新政府との協議で土佐藩兵十一名が妙国寺で切腹した事件であった。当初は発砲した二〇名が切腹と決まっていたが、仏国側の申し入れで、九名が生き残った。高知県へ願い出た土居盛義は、この生き残りのうちの一人となる。このような生き残りや遺族の意を汲んだ高知県が、「泉州堺事件ニ関スル歎願書」（土居の嘆願）・「十一烈士ノ姓名及願末ノ略記并ニ十一士履歴書」という、「国事殉難」の事績を証するための補強材料ともいべき資料を上申に添えて内務省へ提出したのである。

上申に添えられて内務省へ提出された土居の嘆願書には、当然ながら土佐藩兵の「警衛ノ職分」上のやむをえない銃撃であった点が強調されていた。さらに、嘆願書は「国家ヲ思フノ赤誠ニ出タルモノハ粗暴過激ニ渉ルモノト雖モ猶ホ贈位ヲ賜ヒ或ハ靖国神社ニ合祭セラレ百世ニ庶食ス」と、おそらくは急進的尊攘活動を行った者に対する、政

府側の贈位・靖国合祀措置を持ち出し、「国事殉難」の基準や枠組みについての矛盾を鋭く突く内容となっていた。²⁰⁾

実は、この嘆願書の起草者は谷干城であり、²¹⁾いわゆる反藩閥的色彩を帯びた政治的顕彰運動と、明治二三年（一八九〇）前後から堺事件の「殉難者」顕彰活動を開始していた土居の活動が結びついていた可能性が高い。そのような意味では、地域と一括りではないとも県・土居・遺族―谷という重層的な顕彰主体によって、堺事件「殉難者」の合祀漏れに対する国家への働きかけが推進されていたのであった。本稿では、明治二五・二六年の遺漏者問題に焦点を絞るため多言しないが、堺事件「殉難者」顕彰をめぐる動向を、明治初年より昭和戦前期という時間軸を通した視角で俯瞰した場合、外交的かつ政治的課題を常に孕みつつ推移し、非常に複雑な経過を辿るのであり、この遺漏者問題以前およびその後の動態については、稿を改めて詳述する。ともあれ、内務省へ再呈された履歴類は同省内での調査を経て明治二六年（一八九三）三月二十四日、次のごとく内務大臣・井上馨から陸軍大臣・大山巖と海軍大臣・西郷従道へあてて協議が持ちかけられていた。²²⁾

靖国神社へ合祀ノ義ニ付、高知県知事ヨリ別紙之通申出別表箕浦猪之吉以下拾壹名ハ、事実無余儀相見候ニ付、合祀相成可然候仍テ書類相添及御協議候条、何分之御意見御申越有之度

内務省が箕浦ら十一名の履歴を別表にまとめた、その「事故」の項目には「明治元年泉州堺表警衛ノ際仏人上陸乱暴ヲ制スルニ方リ彼ヨリ発砲シ我カ隊旗ヲ奪フヲ以テ之ヲ討攘シ死ヲ賜フ」とみえること²³⁾から、高知県あるいは土居盛義・谷干城の申し立てを認め、内務大臣・

井上馨が「事実無余儀」事案として合祀適合の判断を下していたことがわかる。土居の嘆願書が着目した「粗暴過激」者、すなわち急進的尊攘活動を行った、特に長州系の「志士」らへの靖国合祀・贈位という事実との矛盾を解消し、政府の顕彰政策への批判をあらかじめ回避させようとする判断が働いていたことは想像に難くない。

ところで、高知県提出の箕浦以下十一名以外の、府県から内務省へ呈された合祀漏れ「殉難者」をここで一瞥しておけば、各府県提出の履歴につき内務省が調査を行った結果、陸・海軍へ照会する前に合祀除外とされた者が、計五六名にのぼったことがわかる（表1・備考参照）。その除外理由を大別すれば、およそ以下のとおりとなる。①負傷後従軍を離れ帰宅・治療数年後死亡：三名、②病死：六名、③嘉永六年以前死亡：一名、④すでに合祀済み：八名、⑤長州征討従軍戦死：十五名、⑥事実不詳：九名、⑦事績疑義：一名、⑧禁門の変守衛戦死：十名、⑨天狗党追討従軍戦死：一名、⑩その他（反政府的言動）二名。まず、第一点目と第二点目にみえるように、従軍に際する戦死ではない帰宅後死亡および病死者が「国事殉難」の枠組みから外されたことが知れる。そして、第四点目の合祀済みや第六点目の事実・事績が迎れない、あるいは遺族の居所不明などによる事実不詳の「殉難者」が相当数、府県から上申された履歴書に含まれており、これらが除外されたのである。

右に大別した十名の除外理由のうち、最も多数を占めるのが第五点目の長州征討に際する戦死者であり、殉難者の没年および上申の府県からも明らかとなり、これは慶応二年（一八六六）六月に戦闘が開

始された、第二次長州征討の征討軍側の戦死者であった。また、これに次いで第八点目の元治元年（一八六四）七月の禁門の変における守衛側従軍戦死者が多い。極めて端的に、現政権の特に旧長州藩を中心とする正統性に抵触する歴史的事実ないしその戦死者への忌避、という認識がここから看取され、靖国合祀不適合との措置に結びついていくことが窺える。

そして、現政権との関係からは、第九点目の天狗党追討軍側の戦死者つまり幕府方の従軍者、第十点目の東京帝都不適當を論じた妹尾三郎平（No.67）と大村益次郎の襲撃に加わった五十嵐伊織（No.129）すなわち反政府的言動が、それぞれ合祀除外とされていた点に、これらは個別の事例ながら特徴が見出せるであろう。さらに個別の事例という面からは、第七点目に事績疑義との理由がみえることが注目される。これは、本間精一郎（No.121）の事績をめぐる当該期の政府内での評価つまり「佐幕」的な活動に対する疑義を認めた結果、合祀除外との措置が取られたことが明らかである。それは、政府内においてこれらの事績調査に関わった、まさしく「勤王」を自認する土佐派の田中光顕らからすれば、特に「国事殉難」ないし「勤王」とは認めがたい人物の一人であり、のちに大正期に本間が贈位の対象となった際には、彼の非常な嫌悪感を呼ぶことでも裏付けられる⁽²⁵⁾。

さて、それでは内務省による合祀適合の認定を受けた先の堺事件「殉難」の十一名は、その後、いかなる経過を辿ったのであろうか。総計一四八名中、五六名の内務省による合祀除外の意見と同省からの協議を打診された陸軍省は、省内で次のような認識を示していた⁽²⁶⁾。

各自之事跡ニ在テハ既ニ同省（内務省―筆者註）ニ於而精細調査済之義ニ付、此上当省ニ於而再調之必要ハ無之ニ依リ専ラ合祀資格上如何ニ就キ調査致候処、右之内内務省ト意見ヲ異ニスルハ高知県知事上申ノ十一名ニシテ（中略）堺表警衛之士佐藩士仏人銃撃ニ関シ彼レノ要求ヲ容レ、朝廷ヨリ死ヲ賜ヒ藩主亦償金ヲ出シテ日仏交渉事件モ平穩ニ局ヲ結ヒタル次第ニ付、該屠腹タル全ク殉難死節トハ認め難ク、且ツ岡山県知事上申ノ一名モ同性質ノモノニ候間、右十二名ハ被差除其他八拾名ハ先例モ有之事ニ付、内務省協議之通り合祀相成可然存候

すなわち陸軍省は、堺事件に関し仏側の要求を容れ朝廷よりの命にて切腹、藩主も償金を出し平穩な終結を迎えたことから、「国事殉難」の枠外との判断を下していたのであった。さらに岡山県知事上申の一名、つまり神戸事件の責を負い切腹した瀧善三郎も、堺事件と「同性質」の者として除外すべき、として内務省と海軍省へ最終的な回答を行ったのである。先述の内務省による除外五六名に加え、陸軍省除外の十二名の計六八名が政府内で合祀不適合とされ、残る八〇名が靖国神社へ合祀されたのは、明治二六（一八九三）年十一月の例大祭のことであった。²⁷

地域側が広い掘い上げに努めて掘り起し、政府へ提示した「殉難志士」には、これまでみたとおり、必ずしも国家側がその功績を認め得る人物のみが含まれていた訳ではなかった。それは、輻輳する維新の変革において、現政権の形成に資した人物が「国事殉難者」としての認定と顕彰を受ける一方で、その正統性に抵触しないしはこれらに抗す

る活動を行った人物らが明確に捨象されてゆく過程でもあった。しかし、地域側はこの「国事殉難」の枠組みの矛盾点を指摘しながら、明治二五・二六年に靖国合祀遺漏者について再審を迫ったといえよう。堺事件「殉難者」の例にみたように、政府内ではその事績評価をめぐって、内務・陸軍省間で意見が相違するなど、「国事殉難」の基準をめぐる国家内での揺らぎや逡巡が生じていたのであり、地域からの働きかけがこのような課題を喚起したのである。国家が容易に容認しがたい「殉難者」への顕彰は、「国事殉難」の枠組みや基準への疑義ないし批判を伴いながら、地域に残された遺族またそれらに纏わる生存者、そしてそれを支援する人々によって、これ以降、担われることとなる。国家ヲ思フノ赤誠ニ出タルモノ²⁸たちの事績が、まさに問われ続けるのである。

二 贈位・叙位遺漏者問題

明治二五・二六年の靖国合祀遺漏者問題は、政府による明治二四年時点での合祀処分終了予定に対する、地域側からの要請に基づく殉難者の履歴再審という動向であったが、国家による維新の「志士」顕彰のいまひとつの柱というべき贈位・叙位についても、最初に述べたごとく明治二二年の憲法発布および明治二四年の一斉贈位という措置のち、当該期にその遺漏者に関する課題が生じていた。明治二四年における靖国合祀および贈位・叙位の、政府による処分終了の見通しと一斉処分という符合は、帝国議会の開会における立憲制国家の形成を

内外に発揚する政府の企図と重なりながら双方が連動していたものと推測される。おそらく、靖国合祀同様、贈位・叙位に関して地域からの遺漏者が続出し問題化することを察知した内務大臣・井上馨は、明治二六年（一八九三）六月十日付で各府県の地方官へ向けて次のような訓令（内務大臣官房丙第四九一号）を発していた。²⁹

王政維新之際専ラ力ヲ 王事ニ致シ殉難死節若クハ病没シタル者ニシテ、爾後贈位等ノ特典ニ浴セス、或ハ生存者ニシテ其名湮滅顯レス叙位等無之モノアリテハ、国家彰功ノ主旨徹底セサル次第ニ付、地方官ニ於テ此際十分調査ヲ遂ケ、自然遺漏ノモノアラハ其姓名并履歷書ヲ具シ速ニ内申セラルヘシ

維新における功労者への、「国家彰功の主旨」が未だ貫徹していない状況であるとの認識は、先にみた靖国合祀遺漏者問題での地域からの認定促進活動に伴って、政府側が得た実感であったはずである。

ところで、この訓令に基づいて、各府県では遺漏者に関する調査が進められつつあったが、その過程では内務省の意図を超えて事態が、さらに拡大するおそれがあったことが、六月三十日付の内務大臣秘書官より発せられた通牒によって窺える。³⁰

府県中公然郡長ニ示達或ハ新聞紙ニ公告シ調査被致候向モ有之哉ニ相聞候、然ルニ右内訓之主旨ハ決シテ公然発表広ク功労者ヲ江湖ニ求ムルノ意ニアラス、特別功労者ノ顯著ナル者ニシテ現ニ贈位又ハ叙位ヲ受ケ居ル者ニ比準シ、栄典ニ相漏候者ニ限り詮議可相成次第ニ付、此意ヲ体セラレ仮令申立候者有之候共、貴官ニ於テ厳密審査鑑別シ稟申相成候ニ付テハ実歴明証ヲ確認セラル、義

必要ニ有之、万一ニモ誤謬又ハ誇張等無之様御注意相成度

公然と郡長らに示達し、さらに新聞紙などを通じて江湖に功労者の掘り起しを募れば、多量の申請が寄せられることは容易に予想がつくのであり、何よりも靖国合祀遺漏者問題のごとく政府の忌避する事績を抱えた人物の履歴が陸続と提出されることとなろう。これをおそれた内務省は、あくまでも「内訓」による事績の明瞭かつ顕著な功労者に関する厳密な調査を地方官に求めていたのであった。

さて、高知県が先の内務大臣よりの訓令を受け、県下の郡市長へあて遺漏者の調査を命じたのが六月十五日（高知県訓令乙第三十五号）であり、その内申期限は七月五日と、かなり早急な履歴書の提出が命ぜられていた。³¹ 各都市より高知県へ、履歴書が差出された月日に関する明確な史料は残念ながら確認できないが、八月十七日の時点で高知県内務部長・野尻邦基は各郡市長にあて「本年本県乙第三十五号により別紙姓名之者各所より届出候所、右者該訓令ニ適當せる者なるや否一応内調致し度候条、各自履歴書及行実等御取調御内申相成度」との内牒を発しており、少なくともこの前後には、履歴書はともかく該当者の姓名について、相当数のものが県へ寄せられていたことがわかる。

最終的に高知県側が取調べ編纂した、贈位・叙位遺漏者に関する履歴は、「勤王者調」と称されて纏められ、現在は高知大学総合情報センターにその写本が残されている。³² 計六冊（四ノ一は上下で一冊）に収められた遺漏者は、実に三〇四名もの多数にのぼっていたことが知れる（表2）。各都市から提出された遺漏者の履歴書は、高知県において絞り込みがなされ、事績の調査を経て、「勤王者調」に収められ

ていたはずであるが、それではこの「勤王者調」に収録された人物は、いかなる基準に基づき精査されたのであろうか。これを窺わせるのが、七月二六日付で高知県知事・石田英吉が山口・鹿児島県知事へあてて差出した以下のような問合わせである。³⁴

王政維新之際、王事ニ勤勞セシ者贈位叙位等ニ係ル調査之儀、内務大臣ヨリ訓令相成候処、本県ニテハ略左記之通之方針ヲ以調査之見込ニ有之候、貴県ニ於テハ右範圍程度ニ就キ如何之御方針ニモ候哉承度、御問合之為此段及御内牒候也（中略）

一、維新之際殉難死節之者ニシテ已ニ靖国神社ニ合祀相成贈位無之者

但戦死ニ非ラサル者

一、奥羽等ニ於テ勲功アリテ戦死セシ者

一、維新ノ功績顯著ナルモノニシテ病没又生存之者

つまり、第一に維新における殉難者のうちすでに靖国神社に合祀されその死因が戦死以外の者、第二に戊辰戦争の戦死者、第三に功績の顕著な人物のうち死因が病没の者および明治二六年時点で生存中の者が贈位・叙位遺漏者の対象とされたのであった。この問合わせに対し、山口県知事・原保太郎は「大凡同様之方針」、鹿児島県知事・大迫貞清は「貴県御取調之方針ニ依リ」調査中との回答をそれぞれ寄せており、³⁵維新を主導したいわゆる旧薩・長・土という「勤王藩」相互の贈位・叙位遺漏者の対象範囲と基準に関する認識は、地域同士の連携によって共有されていた。この他、内務省への履歴内申にあたっては、遺漏者の選定に関するこれらの県同士の相互連絡がなされるなど、県

レベルにおける調整の動向が現れる点が興味深いのだが、これについては次章で触れることとする。

高知県編纂による「勤王者調」を繙けば、贈位・叙位遺漏者に関する履歴は、おおむね各自の出身ないし居住の郡・村名、そして身分が記載されたのちに、姓名と出生年月が記され、最後に事績が綴られており、ほぼ定型化された様式に基づいて履歴書が纏められている。高知県による先述の調査範囲と比較した場合、第一点目の靖国合祀者のうちの非戦死者という点では、前章でも述べたとおり明治十六年に八〇名、そして同二一年に五名が靖国合祀の対象となり、この他、戊辰戦争の戦死者として明治二年に一名が合祀済みであったため、総計八六名が靖国合祀者となっていた。³⁶このうち、すでに明治二四年時点で贈位を受けていたのが一三名にのぼっており、³⁷残る七三名が贈位遺漏者となる。表2の人物の事績中へ便宜的に①と記したものがこれにあたり、七三名全員が「勤王者調」に収載されていた。

すなわち、第一点目の対象範囲では元治元年（一八六四）に武市半平太投獄釈放を訴え屯集し処刑された、清岡治之助以下のいわゆる野根山屯集事件の死者（No. 4・49～69）や文久三年（一八六三）の天誅組における刑死者（No. 27・30・32～35）などが最も顕著な例となる。また、樋口真吉（No. 13）や宮地宜蔵（No. 21）らの病死者もこれに含まれると考えられる。しかしながら、高知県が掲げた靖国合祀者中の「戦死ニ非ラサル者」との対象範囲は、元治元年に起こった禁門の変において長州勢に加わった尾崎幸之進（No. 6）・那須俊平（No. 8）・柳井健次（No. 37）、あるいは文久三年の天誅組に与した森下幾馬（No.

表2 「勤王者調」収載遺漏者および贈位・叙位措置一覧

	姓名	出身・身分	事績	没年	贈位・叙位
勤王者調一（内題：高知県庁編纂 勤王事績調一）					
1	小南五郎	高知藩土佐郡江ノ口村土族	藩功臣。勤王党庇護／④	明治15年2月22日	贈従四位（明治31年7月4日）
2	平井善之丞政実	高知藩長岡郡小野村土族	藩功臣。勤王党庇護／④	慶応元年5月	贈従四位（明治31年7月4日）
3	上岡勝治正敏	高知藩高岡郡東津野村平民	禁門の変（割腹）／明治10年3月招魂社合祭／①	元治元年7月19日	贈正五位（明治31年7月4日）
4	清岡治之助正道	高知藩安芸郡中山郷土族	野根山屯集（斬首）／①	元治元年7月30日	贈従四位（明治31年7月4日）
5	能勢達太郎成章	高知藩安芸郡安芸東浜土族	禁門の変（割腹）／明治10年3月招魂社合祭／①	元治元年7月21日	贈正五位（明治31年7月4日）
6	尾崎幸之進直吉	高知藩土佐郡小高坂村土族	禁門の変（戦死）／明治10年2月12日族祿復旧・明治10年3月招魂社合祭／①	元治元年7月19日	贈正五位（明治31年7月4日）
7	安東真之助強恕	高知藩土佐郡中新町土族	禁門の変（自刃）／明治10年3月招魂社合祭／①	元治元年7月21日	贈正五位（明治31年7月4日）
8	那須俊平重任	高知藩高岡郡樟原村土族	禁門の変（討死）／明治10年2月族祿復旧・同14年8月16日靖国合祀／①	元治元年7月19日	贈正五位（明治31年7月4日）
9	山内兵庫豊譽	高知藩主ノ一門	勤王党庇護／④	記載なし	贈従四位（明治31年7月4日）
10	島村雅事	高知藩土族	勤王党諸活動。新政府出仕／④	明治18年8月30日	贈正五位（明治31年7月4日）
11	島村洲平雅童	高知藩土佐郡菜園場町土族	勤王党諸活動。同6年東上の途次、病没／③	明治6年12月2日	贈正五位（明治31年7月4日）
勤王者調二（内題：高知県庁編纂 勤王事績調三（ママ、ニカ））					
12	大石圓	高知藩香美郡野市村土族	勤王党諸活動。明治元年、東征軍従軍／③	生存中	叙従五位（明治39年カ）
13	樋口真吉	高知藩土族	勤王党諸活動。明治元年、東征軍従軍。同2年、病死／①	明治2年6月	贈従四位（明治36年11月13日）
14	五十嵐文吉	高知藩土佐郡廿代町土族	勤王党諸活動。明治元年、小監察。同14年、病没／③	明治14年10月8日	贈従四位（明治36年11月13日）
15	牧野群馬茂敬（初小笠原唯八）	高知藩土族	倒幕党糾合。東征軍従軍中、被弾戦死。／招魂社合祭／②	明治元年8月25日	贈正五位（明治31年7月4日）
16	門田為之助実毅	高知藩土佐郡小高坂村土族	勤王党加盟。藩徒日付。慶応3年家に在りて病没／③	慶応3年（月日記載なし）	—
17	安岡寛之助正義	高知藩香美郡山北村土族	勤王党諸活動。東征軍従軍中、戦死／招魂社合祭／②	明治元年8月25日	贈正五位（明治31年7月4日）
18	川原塚茂太郎重幸	高知藩土佐郡南奉公人町土族	勤王党諸活動。同9年国事犯の嫌疑により東京警視拘留、病死／③	明治9年9月	—
19	森新太郎為政	高知藩香美郡富家村土族	勤王党加盟。東征軍従軍／③	生存中	贈従五位（大正4年11月10日）
20	上田楠次元永	高知藩土佐郡江ノ口村土族	勤王党加盟。東征軍従軍中、戦死。／招魂社合祭／②	明治元年4月18日	贈正五位（明治31年7月4日）
21	宮地宜蔵正寛	高知藩高岡郡能津村土族	勤王党諸活動。脱藩。加茂行幸供奉、帰途、病死／招魂社合祭／①	元治元年（ママ、文久3年カ）7月28日	贈正五位（明治31年7月4日）
22	小畑孫三郎正路	高知藩土佐郡北奉公人町土族	勤王党諸活動。投獄、獄中死／明治10年2月19日祭祀料下賜・3月招魂社合祭／①	慶応3年9月21日	贈従四位（明治31年7月4日）
23	安岡忠綱（金馬）	高知藩安芸郡馬之上村庄屋源七二男	勤王党諸活動。脱藩、禁門の変・長州征討参加。外国人同伴上京の罪により永禁固。明治5年許され、のち病死／③	明治27年（月日記載なし）	—
24	大石剛左衛門守孝	高知藩土佐郡一宮村土族	勤王党諸活動。東征軍従軍中、戦死／②	明治元年4月23日	—
25	吉井顕蔵之光	高知藩土族	勤王党諸活動。明治元年幕府旗士附用人となり、官軍帰順に尽力。5月、沼津屯集賊徒征伐中、横死／招魂社合祭／④	明治元年5月22日	—
勤王者調三（内題：高知県庁編纂 勤王事績調三）					
26	森下幾馬茂時	高知藩土佐郡秦泉寺村土族	天誅組（戦死）／明治14年5月27日靖国合祭／①	文久3年8月27日	贈正五位（明治31年7月4日）
27	森下儀之助茂忠	高知藩土佐郡秦泉寺村土族	天誅組（刑首）／明治14年5月27日靖国合祭／①	元治元年2月16日	贈正五位（明治31年7月4日）
28	前田繁馬正種	高知藩高岡郡松原村庄屋	天誅組（戦死）／明治10年3月招魂社合祭／①	文久3年8月（日記載なし）	贈正五位（明治31年7月4日）
29	鍋島米之助	高知藩土佐郡潮江村土族	天誅組（戦死）／明治10年3月族祿復旧・招魂社合祭／①	文久3年8月（日記載なし）	贈正五位（明治31年7月4日）
30	澤村幸吉行敏	高知藩土佐郡潮江村土族	天誅組（刑死）／明治10年3月招魂社合祭／①	元治元年2月18日	贈正五位（明治31年7月4日）
31	楠目清馬藤盛	高知藩土佐郡潮江村土族	天誅組（闘死）／招魂社合祭／①	文久3年9月25日	贈正五位（明治31年7月4日）
32	土居佐之助金英	高知藩土佐郡北新町土族	天誅組（刑首）／明治10年3月招魂社合祭／①	元治元年2月16日	贈正五位（明治31年7月4日）
33	安岡斧太郎直行	高知藩安芸郡安田浦土族	天誅組（刑首）／靖国合祭／①	元治元年2月19日	贈正五位（明治31年7月4日）

34	島村省吾正文	高知藩安芸郡羽根村平民	天誅組（刑首）／明治21年5月招魂社合祭／①	慶応元年正月18日（ママ、元治元年2月16カ）	贈正五位（明治31年7月4日）
35	田所勝次郎重道	高知藩土佐郡潮江村土族	天誅組（刑首）／招魂社合祭／①	元治元年2月19日	贈正五位（明治31年7月4日）
36	伊藤甲之助和義	高知藩土佐郡浦戸町土族	禁門の変（自刃）／明治10年3月招魂社合祭／①	元治元年7月19日	贈正五位（明治31年7月4日）
37	柳井健次友政	高知藩土佐郡小高坂村土族	禁門の変（戦死）／明治10年2月12日族祿復旧・同年3月招魂社合祭／①	元治元年7月19日	贈正五位（明治31年7月4日）
38	中平龍之助定雄（確）	高知藩地下浪人	禁門の変（自刃）／明治10年3月招魂社合祀／①	元治元年7月19日	贈正五位（明治31年7月4日）
39	望月亀弥太義澄	高知藩土佐郡小高坂村土族	池田屋事件（屠腹）／明治10年3月招魂社合祀／①	元治元年6月6日（ママ、5日カ）	贈從四位（明治31年7月4日）
40	石川潤次郎真義	高知藩土佐郡鉄砲町土族	池田屋事件（闘死）／明治10年3月招魂社合祀／①	元治元年6月6日（ママ、5日カ）	贈正五位（明治31年7月4日）
41	安藤鎌治正勝	高知藩土佐郡久万村土族	三条制札事件（割腹）／明治10年2月12日族祿復旧・同年3月招魂社合祀／①	慶応2年9月13日	贈從五位（明治31年7月4日）
42	藤崎八郎誠輝	高知藩土佐郡鉄砲町土族	池田屋事件（闘死）／明治10年3月招魂社合祀／①	元治元年6月6日（ママ、5日カ）	贈從五位（明治31年7月4日）
43	藤崎吉五郎楠彦	高知藩土佐郡鉄砲町土族	三条制札事件（闘死）／明治10年2月12日族祿復旧・招魂社合祀／①	慶応2年9月13日	贈從五位（明治31年7月4日）
44	野老山五吉郎輝朗	高知藩土族	池田屋事件（屠腹）／明治10年2月12日族祿復旧・招魂社合祀／①	元治元年7月2日	贈從五位（明治31年7月4日）
45	大利鼎吉正樹	高知藩土大利某附藉	勤王党諸活動。脱藩、禁門の変参加。壬生浪人と闘死／明治10年3月招魂社合祭／①	慶応元年正月8日	贈正五位（明治31年7月4日）
46	千屋金策孝成	高知藩高岡郡姫郷々村土族	勤王党諸活動。脱藩、長州に至る。作州土居の関門にて番兵と闘い、自刃。／明治14年8月16日靖国合祀／①	慶応元年2月22日	贈正五位（明治31年7月4日）
47	島並馬義親	高知藩吾川郡長濱村土族	天誅組加盟後、作州土居の関門にて番卒の闘む所となり、井原底助と耦死／明治14年8月16日靖国合祀／①	慶応元年2月22日	贈正五位（明治31年7月4日）
48	井原応助徳道	高知藩高岡郡佐川村国老深尾某ノ臣	勤王党諸活動。脱藩、作州土居の関門にて番兵と闘い、島並馬と耦死／招魂社合祀／①	慶応元年2月（日記載なし、22日カ）	贈正五位（明治31年7月4日）
49	近藤次郎太郎為美	高知藩安芸郡西島村庄屋	野根山屯集（処刑）／明治10年2月12日族祿復旧・同年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈正五位（明治31年7月4日）
50	宮田頼吉能格	高知藩安芸郡安田村土族	野根山屯集（処刑）／明治10年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
51	豊永斧馬方銃	高知藩平民	野根山屯集（処刑）／明治10年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
52	柏原嶺吉義勝	高知藩平民	野根山屯集（処刑）／明治10年2月12日族祿復旧・同年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈正五位（明治31年7月4日）
53	柏原省三信郷	高知藩土族郷土柏原某附藉人	野根山屯集（処刑）／明治13年招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
54	宮田節齋秀貫	高知藩安芸郡安田村平民	野根山屯集（処刑）／明治13年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
55	須賀恒次義氏	高知藩安芸郡安芸浦平民	野根山屯集（処刑）／明治10年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
56	寺尾権平良利	高知藩安芸郡安芸浦土族	野根山屯集（処刑）／明治10年2月12日族祿復旧・同年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
57	田中収吉維清	高知藩大庄屋	野根山屯集（処刑）／明治10年2月12日族祿復旧・同年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
58	新井竹次郎義正	高知藩安芸郡北川郷庄屋	野根山屯集（処刑）／明治10年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
59	岡松恵之助正直	高知藩安芸郡大井村土族	野根山屯集（処刑）／明治10年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
60	横山英吉正利	高知藩地下浪人	野根山屯集（処刑）／明治10年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
61	檜垣繁太郎正休	高知藩庄屋	野根山屯集（処刑）／明治10年3月招魂社合祀／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
62	木下嘉久次秀定	高知藩関所番頭	野根山屯集（処刑）／明治10年2月12日族祿復旧・同年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
63	木下鎮之助彝正	高知藩関所番頭弟	野根山屯集（処刑）／明治10年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
64	千屋熊太郎孝樹	高知藩庄屋	野根山屯集（処刑）／明治10年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
65	吉本培助元枝	高知藩土族	野根山屯集（処刑）／明治10年2月12日族祿復旧・同年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
66	宮地孫市利涉	高知藩土佐郡江ノ口村土族	野根山屯集（処刑）／明治10年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
67	小川官次好雄	高知藩安芸郡島村土族	野根山屯集（処刑）／明治10年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
68	安岡鐵馬忠房	高知藩安芸郡馬之上村庄屋	野根山屯集（処刑）／明治10年2月12日族祿復旧・同年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
69	川島惣次	高知藩関門番人	野根山屯集（処刑）／明治10年2月12日族祿復旧・同年3月招魂社合祭／①	元治元年9月5日	贈從五位（明治31年7月4日）
70	山本忠亮正胤	高知藩土佐郡杵田村土族	文久3年藩命により三条実美を守衛。幕府、五卿を幕兵に致さんことを迫る時に、脚疾を病み自刃／明治10年3月招魂社合祭／①	慶応2年5月29日	贈從五位（明治31年7月4日）

71	島村衛吉重險	高知藩土佐郡菜園場土族	勤王党諸活動。投獄、拷問に堪えず死す／明治10年3月30日祭祀料下賜・同15年招魂社合祭／①	慶応元年3月23日	贈従四位（明治31年7月4日）
72	久松喜代馬重和	高知藩土佐郡中新町土族	勤王党諸活動。井上佐一郎殺害につき、刑死／明治10年3月招魂社合祭／①	慶応2年（ママ、慶応元年カ）閏5月11日	贈従四位（明治31年7月4日）
73	岡本次郎正明	高知藩土佐郡小高坂村土族	勤王党諸活動。井上佐一郎殺害につき、刑死／明治10年2月12日族祿復旧・同年3月招魂社合祭／①	慶応2年（ママ、慶応元年カ）閏5月11日	贈従四位（明治31年7月4日）
74	村田忠三郎克昌	高知藩香美郡古川村土族	勤王党諸活動。井上佐一郎殺害につき、斬首／①	慶応元年閏5月	贈従四位（明治31年7月4日）
75	田内衛吉茂稔	高知藩土佐郡菜園場土族	勤王党諸活動。井上佐一郎殺害につき投獄、獄死／明治10年2月12日族祿復旧・同年3月招魂社合祭／①	元治元年1月28日	贈従四位（明治31年7月4日）
76	池蔵太定勝	高知藩土佐郡小高坂村土族	勤王党諸活動。天誅組参加。敗戦し長州に走る。ワイルウエフ号事件で自刃／明治10年2月12日族祿復旧・同年3月招魂社合祭／①	慶応2年5月2日	贈従四位（明治31年7月4日）
77	中島与一郎清渺	高知藩高岡郡宇佐村土族	勤王党諸活動。脱藩中、脚疾を發し、関吏・土民と死闘、自殺／明治10年3月招魂社合祭／①	元治元年11月23日	贈従五位（明治31年7月4日）
78	近藤長次郎昶	高知藩土佐郡水通町平民商	勤王党諸活動。龜山社中活動中、組頭により屠服。／明治21年5月招魂社合祀／①	慶応2年正月24日	贈正五位（明治31年7月4日）
79	澤村宗之丞	高知藩土佐郡鷹匠町藩士志賀某家来	吉村寅太郎と脱藩。海援隊加入。慶応3年、長崎代官を襲うに際し薩士を殺害、自殺／明治21年5月招魂社合祭／①	（慶応4年カ）正月15日	贈正五位（明治31年7月4日）
80	桑原義之助政伸	高知藩幡多郡楠島村土族	小松勇道・尾川保馬と脱藩。長州、遊撃隊に入り俗論党掃蕩に臨み、病死／明治10年3月招魂社合祭／①	慶応元年春	贈従五位（明治31年7月4日）
81	掛橋和泉吉良	高知藩高岡郡栲原村神職	勤王党諸活動。親戚に詰責、自刃／明治10年3月招魂社合祭／①	文久2年6月2日	贈従五位（明治31年7月4日）
82	小松勇道清雪	高知藩香美郡嶺山郷大杓村平民	勤王党諸活動。長州、遊撃隊に入る。慶応3年（2年カ）幕府の大軍防長に迫るの敵敵兵を襲う。除隊の後病死／招魂社合祀／①	記載なし	贈従五位（明治31年7月4日）
83	観音寺智隆	高知藩長岡郡仁井田村僧	勤王党諸活動。諸国潜伏中、病死／招魂社合祭／③	慶応元年9月26日	—
84	小松小太郎楽成	高知藩平民	勤王党諸活動。蝦夷地探知中、病死／明治10年3月招魂社合祭／①	文久3年6月7日	贈従五位（明治31年7月4日）
85	坂本瀬平	高知藩土佐郡井口村土族	有志五十人行に際し、田内衛吉らと刃傷、死す／明治10年土族復旧・公債証書500円下賜・招魂社合祀／①	文久2年（月日記載なし）	—
86	姓不詳藤吉	滋賀県大津駅	近江屋暗殺／④	慶応3年11月15日	—
87	田所壮輔恒誠	高知藩土佐郡潮江村土族	長州脱藩、三田尻招賢閣にて自刃／明治10年祭祀料下賜・招魂社合祀／①	元治元年9月29日	贈従四位（明治31年7月4日）
88	安岡勘馬安平	高知藩土族	勤王党諸活動。脱藩、四条畷にて屠腹／招魂社合祭／①	元治元年3月14日	贈従五位（明治31年7月4日）
89	豊永伊佐馬高道	高知藩土族猪野某養育人	勤王党諸活動。大和義兵前、四条畷にて幕吏に暗殺／明治24年10月20日招魂社合祀／①	文久3年7月	贈従五位（明治31年7月4日）
90	窪田真吉（変名真田四郎幸氏）	高知藩平民	脱藩、招賢閣で国事奔走。路人絞殺の責めを負い自刃／招魂社合祭／①	慶応2年月日不詳	—
91	島村雅文	高知藩土佐郡潮江村土族	勤王党諸活動。東征軍従軍。生存中／③	生存中	叙従六位（明治37年カ）
92	細木元太郎千足	高知藩高岡郡新居村土族	勤王党諸活動。脱藩、長州遊撃隊参加。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—
93	伊藤怡然和兌	高知藩土佐郡浦戸町土族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治11年、病死／③	明治11年12月26日	贈正五位（大正8年11月15日）
94	宮川助五郎長春	高知藩土佐郡潮江村土族	勤王党諸活動。三条制札事件、脱走。東征軍従軍。明治3年、病死／③	明治3年6月	贈正五位（明治31年7月4日）
95	池田退蔵重胤	高知藩長岡郡西野地村土族	勤王党諸活動。東征軍従軍。のち、病死／③	記載なし	贈従五位（大正4年11月10日）
96	公文藤蔵景高	高知藩高岡郡神田村土族	勤王党諸活動。脱藩、彦根藩大夫某の家僕となり敵の動静を探知。明治2年、病死／③	明治2年（月日記載なし）	—
97	小笠原和平政実	高知藩土佐郡雑喉場土族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治16年、病死／③	明治16年（月日記載なし）	—
98	片岡剛四郎好直	高知藩土佐郡小高坂村土族	勤王党諸活動。戊辰の役、奥羽北越地方巡視。明治5年、病死／③	明治5年某月	—
99	片岡孫五郎直英	高知藩高岡郡永野村土族	勤王党諸活動。慶応3年、病死／③	慶応3年8月14日	贈正五位（明治31年7月4日）
100	山本登重孝	高知藩香美郡野市村土族	勤王党諸活動。元治元年、投獄。東征軍従軍。明治16年、病死／③	明治16年12月	—
101	中島与一郎光尹	高知藩土佐郡南新町土族	東征軍従軍、戦死／招魂社合祀／②	明治元年8月21日	—
102	上田官吉正秋	高知藩土佐郡浦戸町土族	勤王党諸活動。東征軍従軍、戦死／招魂社合祭／②	明治元年8月23日	—
103	三原鬼弥太正矩	高知藩土佐郡雑喉場土族	勤王党諸活動。東征軍従軍、戦死／招魂社合祀／②	明治元年8月25日	—
104	楠瀬六衛直樹	高知藩土佐郡北新町土族	勤王党諸活動。東征軍従軍、被弾治療中死す／招魂社合祭／②	明治元年6月15日	—
105	辻精馬友猛	高知藩土族	東征軍従軍、戦死／招魂社合祭／②	明治元年7月1日	—
106	平石六五郎正則	高知藩土佐郡小高坂村土族	勤王党諸活動。東征軍従軍、戦死／招魂社合祀／②	明治元年7月	—
107	阿部駒吉洞元	高知藩土佐郡雑喉場土族	勤王党諸活動。東征軍従軍、戦死／招魂社合祭／②	明治元年8月27日	—

108	山内大学豊栄	高知藩主ノ一門	勤王党庇護／④	文久3年4月15日	—
勤王者調四ノ一 上（高知県庁編纂 勤王者調四ノ一）					
109	仲正幹	高知藩土佐郡中新町士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。新政府出仕。明治7年、病死／③	明治7年11月6日	—
110	弘光明之助	高知藩香美郡前浜村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治22年、病死／③	明治22年12月8日	—
111	佐井寅次郎正敏	高知藩土佐郡小高坂村士族	勤王党諸活動。明治4年、病死／③	明治4年4月3日	—
112	濱田八策年満	高知藩土佐郡水通町平民士族	勤王党諸活動。高知県属、土佐神社宮司。のち病死／③	記載なし	—
113	小原与市	高知藩土佐郡高知士族	藩功臣。勤王党庇護。維新後、郡奉行、倉敷県知事。明治23年、病没／③	明治23年10月25日	—
114	村田馬太郎有尚	高知藩香美郡吉川村（身分記載なし）	勤王党諸活動。明治6年、病没／③	明治6年10月30日	—
115	森田金三郎維種	高知藩土佐郡久万村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治8年、病没／③	明治8年3月7日	—
116	長尾省吉	高知藩香美郡久枝村士族庄屋	勤王党諸活動。東征軍従軍。諸所、里正職。井ノ口村指揮不能の責めを負い割腹／④	記載なし	—
117	服部與郎	高知藩土佐郡高知藩士族	川原塚茂太郎と親交。槍術得業生・導役。臨時用として、武市を投獄。慶応2年、病死／③	慶応2年7月20日	—
118	五藤正身	高知藩安芸郡土居村士族	家老、藩功臣。東征軍従軍。権大参事、大参事。明治8年、没／④	明治8年2月26日	—
119	山本四郎義忠	高知藩香美郡野市村士族	勤王党諸活動。慶応2年、病死／③	慶応2年9月26日	—
120	酒井勝作（初山内下総）	高知藩土佐郡高知士族	国老、藩功臣。明治元年、松山城警衛総督。同9年、病死／③	明治9年9月19日	—
121	安岡恒之進正代	高知藩香美郡山北村士族	勤王党諸活動。文久2年、病死／③	文久2年6月	—
122	本山茂任	高知藩土佐郡江ノ口村士族	藩、大監察。勤王党支援。高松・松山征討従軍。新政府出仕。明治20年、病死／③	明治20年8月28日	—
123	中平保太郎定晴	高知藩高岡郡栲原村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治22年、病死／③	明治22年3月	—
124	岡甫助	高知藩土佐郡田測士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治12年、病死／③	明治12年8月26日	—
125	谷正方	高知藩香美郡香宗村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍、帰国後、病死／③	明治元年11月	—
126	市川連水	高知藩高岡郡上分村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治8年、病死／③	明治8年8月25日	—
127	竹村猪之助敬義	高知藩高岡郡栲原村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治16年、病死／③	明治16年4月	—
128	西田可藏其治	高知藩高岡郡岩田地村士族	勤王党諸活動。松山征討従軍。明治14年、病死／③	明治14年（月日記載なし）	—
129	田所元利	高知藩土佐郡井出測士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治26年、病死／③	明治26年6月2日	—
130	江口参太	高知藩高岡郡宇佐村庄屋	勤王党諸活動。維新後、飾磨県属。病死／③	記載なし	—
131	上村貞保	高知藩高岡郡佐川村士族	勤王党諸活動。明治25年、病死／③	明治25年（月日記載なし）	—
132	服部東四郎綾生	高知藩土佐郡小高坂村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治12年、病死／③	明治12年（月日記載なし）	—
133	棚橋御樹	高知藩高岡郡佐川村士族国老深尾某臣	勤王党諸活動。文久3年幽囚、慶応3年赦免。明治18年、病死／③	明治18年1月	—
134	山本頼藏	高知藩安芸郡伊尾木村士族	勤王党有志と密かに交流・支援。慶応3年、軍備方下役。明治元年、武具作配役など従事。明治20年、病死／③	明治20年3月1日	—
135	海路太郎左衛門	高知藩高岡郡大内村士族	勤王党諸活動。慶応元年、諸有志の密旨を受け上京中、病死／③	慶応元年3月28日	—
136	桑原健作	高知藩高岡郡佐川村国老深尾某臣	勤王党諸活動。文久3年謹慎、元治元年復職。明治元年、松山征討従軍。同4年、病死／③	明治5年7月	—
137	矢野川龍右衛門為雄	高知藩土佐郡小高坂村士族	勤王党諸活動。明治元年、家に没す／④	明治元年8月28日	—
138	岩崎維樸	高知藩安芸郡井ノ口村士族	山内兵之助を補佐。勤王党諸活動。東征軍従軍。新政府出仕。明治20年、病死／明治20年12月22日特旨により従六位／③	明治20年12月22日	—
139	高橋重利	高知藩高岡郡永野村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治10年、病死／③	明治10年5月15日	—
140	横田文吉郎安成	高知藩土佐郡本町筋士族	勤王党諸活動。明治元年、徴士、摂津県判事。同11年、病死／③	明治11年5月	—
141	片岡雄馬	高知藩高岡郡半山姫野々村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治3年、病死／③	明治3年9月	—
142	山田三蔵房清	高知藩高岡郡吾井郷村地下浪人	勤王党諸活動。文久3年、泉州堺陣營在努中、病死／③	文久3年7月24日	—
143	西村広藏治家	高知藩高岡郡栲原村士族	勤王党諸活動。明治3年、病死／③	明治3年4月	—
144	千頭小太郎久胤	高知藩土佐郡潮江村士族	勤王党諸活動。文久3年、京師護衛中、病死／③	文久3年（月日記載なし）	—

145	古澤南洋	高知藩高岡郡佐川村家老臣	勤王党諸活動。慶応元年投獄、同3年赦免。明治9年、病死／明治10年3月族祿復旧／③	明治9年7月	贈正五位（明治31年7月4日）
146	鳥羽謙	山内家国老深尾某臣（高岡郡佐川村）	勤王党諸活動。元治元年投獄、慶応3年出牢。明治某年月、病死／③	明治某年月	—
147	吉田早稲	高知藩土佐郡江ノ口村土族	勤王党諸活動。明治元年、伏見の戦いにて跛足となる。帰国後数年、病死／③	記載なし	—
148	岡本恒之助俊直	高知藩土佐郡小高坂村土族	勤王党諸活動。慶応3年、病死／③	慶応3年3月18日	—
149	浪越千磯	高知藩土佐郡旭村土族	勤王党諸活動。慶応3年、病死／③	慶応3年2月	—
150	安岡権馬	高知藩香美郡山北村土族	勤王党諸活動。明治11年、国事犯嫌疑により大石円・久万直澄と松山監獄拘留。出獄後、病死／③	明治11年11月	—
151	田中順助	高知藩長岡郡三和村	勤王党諸活動。文久2年、滞京中病死／③	文久2年6月	—
152	山本左右吉正誼	高知藩安芸郡伊尾木村土族	勤王党有志と密かに交流・支援。慶応元年、入河内村庄屋。のち度会県・福岡県出仕。明治23年、病死／③	明治23年7月5日	—
153	秋澤貞之	高知藩土佐郡杵田村土族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治5年、近衛局分課出仕、のちに没す／明治7年、正七位、同10年位記返上／④	記載なし	—
154	橋詰慶太郎	高知藩土佐郡江ノ口村	明治元年、松山・高松征討に際する錦旗守衛。本藩に帰る後、病死／③	記載なし	—
155	岡崎山三郎	高知藩土乾左近家米	勤王党諸活動。明治元年、伏水役後脱藩、倉敷県在務中、病死／③	記載なし	—
156	中平大治忠表	高知藩高岡郡土崎町庄屋喜之助弟	勤王諸士の謀議を翼賛。記録一も存せず、言行湮滅。慶応元年、病死／③	慶応元年2月15日	—
157	園村尚實（新作）	高知藩土佐郡迫手筋土族	勤王党諸活動。慶応元年投獄、明治元年出牢。同5年、改田村琴平神社祠官・土佐神社宮司。明治22年、没／④	明治22年6月	—
158	中平喜之助	高知藩高岡郡土崎町庄屋	勤王党諸活動。手録密書悉く毀ちて遺さず、言行多く伝わらず。明治9年、病死／③	明治9年2月9日	—
159	市川良行	高知藩高岡郡上ノ加江村庄屋	勤王党諸活動。明治26年、病死。記録尽く毀ちて遺さず、言行多く伝わらず／③	明治26年3月7日	—
160	山崎喜蔵正迂	高知藩高岡郡吾桑村土族	勤王党諸活動。東征軍従軍の弟・広馬と文通。明治19年、家に没す／④	明治19年2月12日	—
161	村田茂穂	高知藩香美郡吉川村土族	勤王党諸活動。慶応3年、山内兵之助歩行役、在京。帰国後、病死／③	慶応3年カ（月日記載なし）	—
162	安岡寛馬正愼	高知藩香美郡山北村土族	文久2年、兄恒之進藩主上京に従い従者となる。諸有志と国事尽力。慶応2年、病死／③	慶応2年11月13日	—
163	岡田啓吉	高知藩土佐郡北新町土族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治15年、死す／④	明治15年10月7日	—
164	上杉鐵三郎重勝	高知藩安芸郡馬ノ上村土族	文久3年、京都変に際し三条実美ら長州下向随従。明治元年暇乞、帰国。後、三条家守衛。明治9年、病死／③	明治9年10月28日	—
165	岡本弘子	高知藩土佐郡北新町土族	勤王党諸活動。京摂間探偵。明治元年、東征軍従軍。明治19年、病死／③	明治19年（月日記載なし）	—
166	深尾壹岐	高知藩土佐郡迫手筋土族	藩、奉行職。勤王党庇護。明治元年、東奥征伐出張。同2年、病死／③	明治2年9月	—
167	田所作太郎寧親	高知藩土佐郡潮江村土族	砲術指南、勤王党有志輩出。勤王党諸活動。明治6年、病死／③	明治6年6月19日	贈正五位（昭和3年11月10日）
勤王者調四ノ一 下（内題なし）					
168	石川喜久馬	高知藩土佐郡鉄砲町土族	勤王党諸活動。文久2年、同志五十人東行に同行、帰国後病死／③	記載なし	—
169	麻田反	高知藩高岡郡佐川村土族国老深尾某臣	勤王党諸活動。慶応元年禁錮、同3年赦免。明治19年、病死／③	明治19年11月	—
170	安岡茂和	高知藩安芸郡川北村土族	勤王党諸活動。藩、下横目。維新後、新政府出仕。生存中／③	生存中	—
171	生原重周	高知藩土佐郡本町筋土族	山内民部近習役。勤王党支援。生存中／③	生存中	—
172	都賀田文八	高知藩土佐郡高知土族	勤王党諸活動。生存中／③	生存中	—
173	西山秀幸	高知藩長岡郡須江村土族	勤王党諸活動。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—
174	池内弥吉郎真義	高知藩香美郡香宗中ノ村土族	勤王党諸活動。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—
175	濱田正敏	高知藩土佐郡久万村土族	勤王党諸活動。松山・高松征討従軍、錦旗守衛。生存中／③	生存中	—
176	橋田新平	高知藩高岡郡上分村土族	勤王党諸活動。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—
177	今橋新作	高知藩高岡郡上分村土族	勤王党諸活動。兄・権助投獄中周旋。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—
178	今橋重亮	高知藩高岡郡上分村土族	勤王党諸活動。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—
179	筒井清興	高知藩安芸郡和食村土族	勤王党諸活動。安芸郡二等士官学校周旋係・戸長。生存中／③	生存中	—
180	戸梶直四郎	高知藩高岡郡日下村平民農	勤王党諸活動。生存中／③	生存中	—

181	山川良水	高知藩土佐郡本町士族	藩、大目付。勤王党支援。明治元年、公議人。後、国幣社宮司、高知県出仕。生存中／③	生存中	—
182	依岡珍磨	高知藩土佐郡新町士族	勤王党諸活動。維新後、片校に奉事し、今尚高知県に役事／③	生存中	叙正八位（明治38年カ）
183	片岡健吉	高知藩土佐郡中島町士族	明治元年、迅衝隊半大隊司令、東征軍従軍。維新前、板垣と勤王論を唱導の事数個あれども、姑く略す。生存中／③	生存中	叙正四位（明治36年カ）
184	田辺家豪	高知藩幡多郡十川村士族医師	勤王党諸活動。慶応元年、板垣を首謀とし討幕を議す。東征軍従軍。西南の軍応援援兵前、自首。生存中／③	生存中	—
185	島村真潮	高知藩香美郡三島村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—
186	堀見久菴	高知藩高岡郡佐川村士族医	勤王党諸活動。明治元年、松山征討従軍。生存中／③	生存中	—
187	樋口一	高知藩安芸郡田野村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍を病にて辞す。生存中／③	生存中	—
188	三好清明	高知藩長岡郡五台山村士族	勤王党諸活動。脱藩、陸・海援隊間奔走。明治元年、脱藩につき城西雁切川以西放逐、後赦免。生存中／③	生存中	—
189	山内豊章（整之助）	高知藩主ノ一門	豊栄の男。勤王党庇護。西南動搖の際、宗家依託により大隊組織。今尚高知神宮教に従事／③	生存中	—
190	田辺家勝	高知藩幡多郡十川村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。西南騷擾の際、国事犯、後無罪。生存中／③	生存中	—
191	大高坂慶親	高知藩土佐郡小高坂村士族	海援隊加入。明治元年、函館出兵従軍。民政局長等従事、生存中／③	生存中	—
192	沖野信篤	高知藩長岡郡三和村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—
193	岡本猪之助正利	高知藩香美郡三島村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—
194	林勝好	高知藩土佐郡中島町士族	藩、仕置役。文久3年、武市婦国に際し国事尽力を議す。堺事件收拾尽力。後、小参事・土佐神社宮司等奉仕、生存中／③	生存中	—
195	下方範茂	高知藩高岡郡佐川村国老深尾某臣	勤王党諸活動。維新前後、終始国事奔走。生存中／③	生存中	—
196	結城深蔵	高知藩高岡郡佐川村士族	勤王党諸活動。生存中／③	生存中	—
197	片岡實純	高知藩高岡郡半山姫野々村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—
198	谷脇修彝	高知藩高岡郡半山姫野々村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—
199	片岡正雄	高知藩高岡郡半山姫野々村郷士	勤王党諸活動。東征軍従軍。置県後、戸長・県会議員。現在、郵便局長／③	生存中	—
200	土方直行	高知藩高岡郡佐川村国老深尾某臣	勤王党諸活動。慶応元年投獄、同3年赦免。明治18年特旨を以て賜金に浴す。生存中／③	生存中	—
201	和田義方	高知藩吾川郡長濱村士族	勤王党諸活動。明治元年兵隊編入、同6年服務中負傷除隊。生存中／③	生存中	—
202	中平定純	高知藩高岡郡榑原村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。郡内小隊司令・村長・郡書記。生存中／③	生存中	—
203	土岐真金	高知藩土佐郡鴨田村士族	才谷梅太郎・石川精之助らに付従、奔走。明治元年、倉敷県軍務局奉仕。後、征韓論主張。生存中／③	生存中	—
204	武田保輔	高知藩土佐郡高知市士族	明治元年脱藩、長岡謙吉らと喋合。塩飽島鎮撫。同2年、外務省使掌。生存中／③	生存中	—
205	田所愛敬	高知藩土佐郡鷹匠町士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。今、男爵山内豊積の家従／③	生存中	—
206	五十嵐敬之	高知藩土佐郡九反田士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。生存中。明治27年、兵部に入り渡韓すと云う／③	生存中	—
207	栗井仙	高知藩土佐郡福井村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。維新後、看守に従事。生存中／③	生存中	—
208	前田秀信	高知藩高岡郡北川村士族	勤王党諸活動。三条実美守衛後、帰国中罹患、後平癒。生存中／③	生存中	—
209	深尾茂延	高知藩土佐郡迫手筋士族	深尾丹波弟。勤王党有志と提携、藩政改革建言。生存中／③	生存中	—
210	川田富根	高知藩土佐郡小高坂村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。新政府出仕。生存中／③	生存中	—
211	木戸明	高知藩幡多郡中村士族	勤王党諸活動。幡多郡文武館文部教授。爾後、家塾を開き後生を教導。生存中／③	生存中	—
212	山崎広馬正義	高知藩高岡郡吾桑村士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。爾後、各村戸長等勤務。生存中／③	生存中	—
213	島地正存	高知藩土佐郡水通町士族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治4年陸軍近衛四番砲隊長正七位。同7年、立志社創立。同19年、高知県属。生存中／③	生存中	—
214	田岡正躬	高知藩国老酒井某家臣	勤王党諸活動。明治2年、藩臣。金陵会議所出張。同3年、輦重調役。生存中／③	生存中	—
215	武政大道	高知藩吾川郡森山村士族	勤王党諸活動。文久3年脱藩。帰藩自首、族籍削除。明治2年、族籍復旧。後、県会議員・収税属等。生存中／③	生存中	—
216	日比野政起	高知藩土佐郡高知市士族	平井善之丞二男。父兄を助け議する所多し。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—

勤王者調四ノ二（内題：高知県庁編纂 勤王者調四ノ二）						
217	吉田直樹	高知藩安芸郡土居村土族	家老五藤正身の臣。勤王党有志を五藤に紹介。生存中／③	生存中	—	
218	平井かほ	高知藩土族西山志澄妻	平井収二郎妹。勤王党諸活動。生存中／③	生存中	—	
219	桑津一兵衛	高知藩土佐郡廿代町土族	勤王党諸活動。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—	
220	吉本知幾	高知藩土佐郡土族	尊攘の義を重し同志と尽力。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—	
221	森脇惟一	高知藩高知市本与力町土族	勤王党諸活動。時勢探索に奔走。明治3年、長州藩探索従事。爾後、諸県に勤務。生存中／③	生存中	—	
222	西山志澄	高知藩高知市鷹匠町	勤王党諸活動。東征軍従軍。新政府出仕。立志社課長。明治25年、衆議院議員。生存中／③	生存中	叙正五位（明治31年力）	
223	中村真夾男	高知藩高岡郡日下村土族	勤王党諸活動。高松征討従軍。後、県下区長・属等奉仕。生存中／③	生存中	—	
224	由比猪内	高知藩土佐郡高知土族	藩、参政、功臣。明治24年、病死／③	明治24年9月12日	—	
225	前野長順	高知藩土佐郡高知土族	勤王党諸活動。慶応2年、上海視察。明治元年堺事件収拾従事、東征軍従軍。同12年、病死／③	明治12年7月17日	—	
226	林茂平	高知藩土佐郡高知土族	文久2年三奈実美東下随行。探索係、他藩応接係。明治元年、堺事件処分。新政府出仕。同8年、病死／③	明治8年7月5日	—	
227	横田正柏（初祐造）	高知藩土佐郡高知土族	藩、文武館助教。本山只一郎等と交わる。尊王主義を主張し生徒を教導。東征軍従軍。新政府出仕。明治17年、病死／③	明治17年10月7日	—	
228	乾和民	高知藩土族	藩、小監察。諸藩探索。高松征討従軍。爾後、大目付・高知藩少参事等従事。明治22年、病死／③	明治22年6月14日	—	
229	深尾三九郎重勝	高知藩土佐郡高知土族	藩、仕置役。慶応3年、谷・毛利・板垣・石川誠之助等と往来、王事尽力。東征軍従軍。陸軍参謀・大目付等従事。明治11年、病死／③	明治11年8月10日	—	
230	武田左衛士（初中山）	高知藩土佐郡高知土族	藩、小目付。慶応年中防長・九州探索、帰国後、国事周旋。廃藩置県成功前、病死／③	記載なし（明治4年力）	—	
231	雨森源右衛門	高知藩土佐郡高知土族	藩、側室従・馬廻組頭。藩主・執政らへの建言多数。武市に賛成。罪あって揚り屋入、後赦免。明治7年没／④	明治7年11月24日	—	
232	松下綱武	高知藩高知土族	藩、文官助教。勤王家擁護。堺事件収拾尽力。生存中／③	生存中	—	
233	前野久米	高知藩土佐郡高知土族	藩、大目付。東征軍従軍。帰藩後、参政・兵事専務等従事。生存中／③	生存中	—	
234	山田平左衛門	高知藩土佐郡高知土族	慶応3年、乾退助・相良惣蔵と薩長討幕に賛成。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—	
235	片岡直胤	高知藩高岡郡永野村土族	兄左太郎と諸有志に交わり周旋。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—	
236	手島季隆	高知藩土佐郡高知土族	藩、小監察。函館・上方等探索、諸藩有志と交際。維新後、刑法局幹事等従事。生存中／③	生存中	—	
237	楠永直光	高知藩土族	月官を以て上京、諸藩有志と王事周旋。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—	
238	原茂胤	高知藩土佐郡高知土族	藩、郡奉行。武市の言を信ず。尊王論を藩主・有司に建言。明治2年、民政参務。生存中／③	生存中	—	
239	大脇順若	高知藩土佐郡江ノ口村土族	藩、仕置役。東征軍軍役出来に尽力。明治2年、藩士食禄削減を実施。生存中／③	生存中	—	
240	長尾孫三郎	高知藩香美郡野市村土族	勤王党諸活動。生存中／③	生存中	—	
241	小野山四郎	高知藩香美郡野市村土族	勤王党諸活動。生存中／③	生存中	—	
242	板垣幸幸	高知藩土佐郡高知土族	勤王党諸活動。明治元年、徒士小隊入、勘定頭取役。後、県出仕。明治18年、病死／③	明治18年9月17日	—	
243	高屋勇次郎	高知藩土佐郡中島町土族	平常、文武を研究。文久3年、京都警衛出張中、慷慨止む能はざる事故あり自刃／④	文久3年正月14日	—	
244	中山格一郎	高知藩土佐郡新町土族	明治元年京師在役、東征軍小荷駄役。正金下付を乞うも再三不採用につき自刃／招魂社合祭／④	明治元年6月6日	—	
245	野々村権四郎	高知藩土佐郡小高坂村土族	明治元年、迅衝隊小隊司令出兵中、病を得て慷慨自刃／④	明治元年正月	—	
246	吉田龍馬	高知藩土佐郡桜馬場土族	文久2年、脚氣により姉小路公知の長州随行不能につき自刃／④	文久2年（月日記載なし）	—	
247	高橋亨	高知藩高岡郡姫野々村土族	国内勤王の志士と交わる。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—	
248	堀内安春	高知藩高岡郡仁井田郷庄屋某二男	勤王党有志と交流。明治2年、長岡謙吉・島本仲道と奔走。九州遊歴、10年乱で鹿児島を避け流遇。同12年、国事犯として投獄中、病死／③	明治12年10月	—	
249	濱田男麻呂	高知藩土佐郡南新町土族 現今兵庫県	藩探索役として長州・中国筋など探偵。高松・松山征討、中山道勝沼交戦に際し探偵。帰国後、弾正台筆生等補任。生存中／③	生存中	—	
250	佐々木貞子	伯爵佐々木高行夫人旧高知藩	良人高行を内助。国事に辛苦。生存中／③	生存中	—	
251	宮地益井	高知藩土佐郡比島村土族	比島村神明宮・大高坂春日神社神官、同志者と国事尽力。東征軍従軍。明治3年、神官復職。生存中／③	生存中	—	
252	山内豊積（初兵之助）	華族男爵 高知藩主一門	容堂弟。勤王党庇護。容堂・藩主名代として上京、周旋。海南学校惣宰。宗家家政取締。明治12年、特旨を以て男爵・従五位。生存中／③	生存中	—	

253	曾和慎八郎	高知藩長岡郡小籠村土族	勤王党諸活動。東征軍従軍。高知藩大従事権大属・海軍大尉。四糸巖神社神官。生存中／③	生存中	叙正六位（明治38年カ）
254	木村辨之進	高知藩土佐郡新井口村土族	勤王党諸活動。慶応3年、鷲尾侍従を奉じ高野山出張後、兵部省出仕。淡山神社宮司。生存中／③	生存中	—
255	上田宗兎正則（后藤藤深造）	高知藩土佐郡九反土族	慶応元年脱藩、長州の客となり巨瀬川の役憤闘。大和の役殊功。明治元年、長州遊撃隊長、伏木の役に死す。／明治10年族録復旧・招魂社会紀／①	明治元年正月3日	贈正五位（明治35年11月8日）
256	大石園蔵	高知藩香美郡野市村土族	文久初年より王事に勤勞、形勢探索の為長防往返。脱藩後、薩長有志者と同謀周旋、諸藩遊説中、行方知れず／④	記載なし	—
257	毛利恭助	高知藩土佐郡高知土族	藩、小目付。武市と連合を約す。佐々木・中岡等と国事斡旋。維新後、彈正台・宮内省等奉仕。従六位。生存中／③	生存中	—
258	丁野遠影	高知藩土佐郡石井村土族	文久2年上京、他藩応接役。勤王同志と結び功勞多しといえど藩内部に在り公顯能はざるもの多し。維新後、各署奉仕、従五位勲六等。生存中／③	生存中	—
259	安岡良亮	高知藩幡多郡中村土族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治8年、熊本県令。同9年、従五位、神風連暴動の際創傷、没／④	明治9年12月27日	—
260	井原昂	高知藩高岡郡佐川村土族	井原広助の遺跡を襲ぐ。勤王党諸活動。慶応元年牢居同3年赦免。明治18年、賜金。生存中／③	生存中	叙従五位（明治36年カ）
261	檜垣直枝	高知藩土佐郡上町土族	勤王党諸活動。坂本瀬平殺害。慶応3年投獄、明治3年永禁固、同6年赦免。後、内務参事官・沖繩県書記官等奉仕。従五位勲三等。生存中／③	生存中	—
262	美正貫一郎	高知藩土佐郡南奉公人町土族	明治元年、迅衝隊半隊司令。東征軍従軍、戦死／②	明治元年7月27日	—
263	下村半輔	高知藩長岡郡高須村土族	明治元年、迅衝隊にて出兵。東征軍従軍。生存中／③	生存中	—
264	箕浦猪之吉	高知藩土佐郡潮江村土族	堺事件（割腹）／④	明治元年2月23日	—
265	森本平馬	高知藩香美郡山田野地村	明治元年、藩兵を以て出兵。東征軍従軍、戦死／②	明治元年8月29日	—
266	藤井氏常子（従五位下山内摂津守豊福室）	東京府華族	明治元年、幕府の在府諸侯協力に対し宗家に属し赤誠を皇室に尽すため、豊福と自刃／④	明治元年正月13日	—
267	喜田松次郎	高知藩幡多郡十川村地下浪人	勤王党提携・諸活動。慶応2年、病死／③	慶応2年正月24日	—
268	沖清之助	高知藩幡多郡土族	嘉永・安政年間外国船防御のため霜柏浦詰従事。明治元年、東征軍従軍。同2年、病死／③	明治2年9月10日	—
269	沖左加枝	高知藩幡多郡下川口村土族	明治元年、東征軍従軍。爾後、郷長・戸長等従事。同9年、病死／③	明治9年9月20日	—
270	中屋彦助	高知藩幡多郡伊田村土族	樋口真吉・安岡良亮と尊王攘夷を主張。明治元年、東征軍従軍。爾後、村長等従事。同11年、没／④	明治11年6月9日	—
271	谷本忠一郎	高知藩幡多郡安満地浦庄屋	勤王党諸活動。明治元年、東征軍従軍、戦死／②	明治元年（月日記載なし）	—
272	池道之助	高知藩幡多郡中ノ濱村平民	慶応3年、海援隊いろは丸事件談判従事。明治4年、村長。同5年、病死／③	明治5年7月16日	—
273	曾根東吉忠行	高知藩幡多郡出口村土族	文久2年、勅使姉小路公知護衛に従事。同3年、帰国。明治16年、没／④	明治16年3月31日	—
274	井上弾之助方直	高知藩幡多郡西ヶ方村土族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治11年、没／④	明治11年11月11日	—
275	矢野川真左衛門良晴	高知藩幡多郡布村土族	勤王党諸活動。明治元年郷廻役、同2年大隊付輻重係。西南騒擾の際方向を失し罪を蒙り、後赦免。同25年、没／④	明治25年4月15日	—
276	宮崎小三郎品亭（享）	高知藩幡多郡実崎村土族	安政元年、三崎浦役家付海防係。明治元年、東征軍従軍、戦死／②	明治元年8月24日	—
277	宮崎傳助	高知藩幡多郡実崎村土族	小三郎の家を襲ぎ、医業を修む。明治元年、京師守衛従軍中罹患、帰国。明治27年、病死／③	明治27年8月29日	—
278	山崎慎六郎	高知藩幡多郡中村土族	藩、砲術導役。東征軍従軍。明治11年、病死／③	明治11年2月21日	—
279	森四郎正名	高知藩土佐郡大川筋土族	尊攘の儀に投じ同志と東西奔走。文武館司業小目付役・高岡郡奉行。明治6年、病死／③	明治6年2月9日	—
280	中澤安馬正和	高知藩土佐郡弘岡町土族	勤王党諸活動。8月18日京師騒擾に際し長兵来迫を探知、守衛予備す。明治13年、没／④	明治13年正月8日	—
281	白石復郎盛忠	高知藩土佐郡福井村土族	勤王党諸活動。江戸京棋問往復、国事斡旋する事多しといえども詳らかにする能わす。慶応3年、病死／③	慶応3年3月	—
282	板坂三右衛門祐茂	高知藩土佐郡迫手筋土族	藩、近習目付・大目付等従事。明治5年、没／④	明治5年正月19日	—
283	深尾鼎重先	高知藩高岡郡佐川村土族	藩、奉行職。有志保護。明治23年、病死／③	明治23年正月31日	—
284	田口文良明俊	高知藩土佐郡北奉公人町土族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治4年医業開業。同17年、病死／③	明治17年2月27日	—
285	桐間藏人清卓	高知藩土佐郡高知土族	文久2年藩政改革にて奉行職。元治元年退隠、景翁老主の遊隠を助く。明治7年、病死／③	明治7年4月6日	—
286	中島如意助氏詮	高知藩安芸郡田野村平民	有志の為に刀剣を造る。明治4年、鍛冶の業を廃し祠官・教導職従事。明治22年、病死／③	明治22年6月21日	—
287	江口亀三郎為義	高知藩土佐郡菜園場土族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治15年、病死／③	明治15年6月19日	—
288	中村信好	高知藩高岡郡安和村土族后別戸平民	勤王党諸活動。文久2年勅使帰京に随行、帰国。爾後、小隊二等士官・戸長等従事。生存中／③	生存中	—

289	長崎隆藏	高知藩土佐郡秦泉寺村土族	野根山屯集に際し藩に建言。脱藩果たせず、帰家。明治18年、病死／③	明治18年某月	—
290	桑原介馬（后諡）	土佐国幡多郡蔵岡村土族	文武館剣術導役。東征軍従軍。後、民部省・兵部省出仕、東京府権典事。正五位叙位。明治5年、病死／③	明治5年8月24日	—
勤王者調五（内題：高知県庁編纂 勤王者調五）					
291	齋藤弥久馬利行	高知藩土佐郡迫手筋土族	藩、仕置役・旗本奉行等従事。維新後、刑部太輔・参議・磨香閣祇候。明治14年、勲二等重光章。同年、病死／③	明治14年5月26日	—
292	岩田太郎正彦	高知藩土佐郡朝倉村土族	文久年間、尊王攘夷の義に同志と尽力。明治元年、東征軍従軍。同7年、赤坂喰違事件にて処刑／④	明治7年7月9日	—
293	伊藤四十吉弘長	高知藩土佐郡浦戸町	勤王党諸活動。其行実等一も伝わるものなし。明治元年、病死／③	明治元年正月11日	—
294	武藤小藤太繁門	高知藩土佐郡永国寺町土族	勤王党諸活動。書類火中し一も残すものなし。文久2年、病死／③	文久2年7月7日	—
295	樋口甚内正直	高知藩幡多郡中村土族	勤王党諸活動。明治2年、病死／③	明治2年6月29日	—
296	宮崎頼太郎嘉道	高知藩幡多郡中村土族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治10年、西南騒擾に際し政体一変企謀につき懲役。爾後、県会議員等従事。明治26年、病死／③	明治26年9月3日	—
297	木戸庄藏直賢	高知藩幡多郡中村商	勤王党諸活動。運動費支援。明治3年、没／④	明治3年10月19日	—
298	尾崎伊勢	高知藩幡多郡不破村土族	東西同志と交わり国事尽力。同志往復書類洪水にて流失。明治7年、病死／③	明治7年8月3日	—
299	横田音壽	高知藩幡多郡中村	勤王党諸活動。慶応元年、病死／③	慶応元年11月4日	—
300	桑原禮次政次	高知藩幡多郡楠島村土族	勤王党諸活動。国事尽力の筆記本害のため流失。明治7年、病死／③	明治7年某月	—
301	吉松万弥行基	高知藩幡多郡中村	尊攘同志と国事に尽力。維新後、白川県・熊本県等出仕。明治12年、病死／③	明治12年5月12日	—
302	小橋勢五郎富久	高知藩幡多郡坂本村郷土	勤王党諸活動。有志往復書類焼棄。東征軍従軍。明治22年、病死／③	明治22年正月	—
303	沖本長次郎道愛	高知藩幡多郡下田村土族	勤王党諸活動。東征軍従軍。明治22年、病死／③	明治22年12月	—
304	山崎久三郎兼光	山城国紀伊郡伏見（加賀藩土米沢左兵衛長男）	天誅組支援。長州に下る。慶応3年、討幕軍従軍。明治9年、病死。妻富、明治9年高知県移住、病死／③	明治9年2月21日	贈従五位（明治44年6月1日）

26）・前田繁馬（No.28）・鍋島米之助（No.29）の戦死・討死の例にみるとおり、実際の選定にあたってはいささか拡大適用されたものと思われる。なお、相当数の自死者もみえるが、これについては戦死および戦死以外の何れの範疇とされたのか判然としない。

ところで、これらの人物のうちの大多数は第一章でも述べたように、明治十六年五月に靖国合祀措置を受けたのであるが、「勤王者調」中の森下幾馬（No.26）や森下儀之助（No.27）の事績に掲げられるごとく、靖国合祀を明治十四年五月二七日とする記述がみえ、調査の過程で高知県にもたらされた政府の達を根拠とした履歴が作成されていた形跡がある^⑧。また、那須俊平（No.8）・千屋金策（No.46）・島並馬（No.47）らは明治十四年八月十六日の靖国合祀とするなど、さらに八月時点で合祀に関する達が寄せられていた可能性があり、「国事殉難」をめぐる靖国合祀の一斉処分の初例に際し、かなりの曲折があったことが、これらからも端的に看取されることをここで付言しておく。

さて次に、戊辰戦争での戦死者についてであるが、これは事績中に②で示したとおり、牧野群馬（小笠原只八／No.15）・安岡覚之助（No.17）・上田楠次（No.20）、その他一二名（No.24・101・107・262・265・271・276）の計一五名が採録されている。そして、第三点目の維新における功績が顕著で病死あるいは生存中の者、という対象範囲では、これまでの第一・二点目のそれを上回る一八五名（一〇四名が病死・八一名が生存者）が収められ、事績中に③として記した者がこれにあたる。以上の第一―三点の対象範囲該当者を総計すれば二七三名となり、残る三一名は高知県が標榜した遺漏者の何れの対象範囲にもあてはま

らない。事績中④で示したこれらを一瞥すれば、高知藩主一門である山内豊譽（No.9）・山内豊栄（No.108）、あるいは土佐藩の功臣で勤王党の支援・庇護者というべき小南五郎（No.1）・平井善之丞（No.2）、そして勤王党活動の中核を担った島村雅事（No.10）などがみえ、これらは特に維新における功績を県が認め、①③の対象範囲設定後に選定したものと考えられる。また死因が自死あるいは単に「家に没す」「没」とだけ記される場合、戊辰戦争の戦死者か維新功績者の病死者中に含まれていた可能性があるが、この点は明確でないため④へ含めた。

このようにして、高知県の調査を経て纏められた遺漏者の履歴は、おそらくその人数の多さといえ、数年にわたって分割のうえ、内務省へ届けられた。表2中では重複するため略したが、「勤王者調」五冊目には同三冊目に収められた片岡孫五郎（No.99）の履歴および追加の遺漏者・山崎久三郎に関する左のような、高知県知事・石田英吉より内務大臣・板垣退助あての上申案が残されている³⁹。

王政維新ノ際功勞アル者調査ノ件訓令ノ旨ニ依リ、明治廿七年十一月十八日付ヲ以テ上申ニ及置キ候処、片岡孫五郎直英ノ履歴ニ就テハ別紙ノ通詳細ノ事歴ヲ得候ニ付、曩ニ上申致有之候分ハ本書ト御引替相成候様致度、将又山崎久三郎兼光ナルモノ、事歴更ニ追加致度候条可然御取成相成度、此段及上申候也

右は明治廿九年（一八九六）七月二十日付の上申案であり、少なくともここから内務省による訓令の翌明治廿七年（一八九四）と、この二年後の明治廿九年（一八九六）に高知県から贈位・叙位遺漏者の履歴が内務省へ提出されたことがわかる。この後、靖国合祀処分同様、

宮内省との調査・協議を経て贈位・叙位措置がなされたと推測される。「勤王者調」に収載された三〇四名のうち、贈位・叙位を受けた者が九五名（贈位が八八名・叙位が七名）であった。先述の高知県が掲げた対象範囲に即して贈位措置との関係をみてゆけば、①の靖国合祀者七三名中、実に七一名が贈位措置を受けており、非常に高い割合でその対象となったことがわかる。これは靖国合祀の時点で、すでにそれらの履歴に関し政府内で調査がかなり「精密」に進められており、事績が比較的明瞭な土佐勤王党関係者であったことに起因している⁴⁰と思われる。贈位対象から漏れたのは、坂本瀬平（No.85）と窪田真吉（No.90）の二名であったが、坂本瀬平については前稿でも述べたとおり⁴¹田内衛吉ら勤王黨員による殺害という事績が憚られたはずであり、窪田真吉に関しても路人絞殺の責めを負った自刃との死亡理由が、特別の功労者という基準に適わない事績と判断された可能性が高い。

また、②の戊辰戦争の戦死者については、一五名中、牧野群馬（小笠原只八／No.15）・安岡寛之助（No.17）・上田楠次（No.20）の三名が贈位の対象となった。牧野においては「倒幕党」を率いた功、安岡・上田はともに勤王党による活動事績を国家側が維新の功績として認めたことが明らかである。③の病死ないし生存者の場合、病死者一〇四名中の九名が贈位、生存者八一名中七名が叙位の措置を受けていた。なお、病死者への贈位には森新太郎（No.19）・伊藤怡然（No.93）・池知退蔵（No.95）・田所作太郎（No.167）の大大正および昭和期における措置対象者四名が含まれ、彼らは大大正大礼ないし昭和大大礼による特別措置という、当該期の遺漏者問題とは別体系に基づく特旨贈位であった可能

性を指摘しておく。⁽⁴²⁾

そして①③の対象範囲の何れにもあたらない④の三一名では、小南五郎（No.1）・平井善之丞（No.2）・山内豊譽（No.9）・島村雅事（No.10）の勤王党庇護者・勤王黨員の四名のみが贈位の対象となった。このような①④の贈位対象者は、およそ土佐勤王党関係者中の比較的事績が明瞭な人物に集中したといえよう。

改めて表2の遺漏者の事績を通覧すれば、紙幅の都合もあり大幅にその事績を簡略にした場合もあるが、何らかのかたちで土佐勤王党活動への関わりをもった人物が非常に多く含まれていることに気づく。

それらの多くは、「癸丑」以来「尊王」の志に厚く、文久年間に「武市平平太」が首唱した「尊攘之大義」に「有志」らと就き国事に奔走した、との文脈に沿った履歴が形づくられているのである。このような文脈に沿った履歴と歴史像の形成は、国家側がその功績を認定するうえで、非常に有効に働くことを見通した、地域側の認識が反映された結果でもあっただろう。近代日本における国家側が求める「勤王」の価値基準と内実が、このようにして定まってゆくのである。当然ながら靖国合祀処分問題において政府が対象外とした、堺事件「殉難」の十一名中「勤王者調」に含まれていたのは箕浦猪之吉のみであり、また、政府がその顕彰を忌避するであろう、赤坂喰違事件の加担者・不平土族・民権運動家らが、そもそも「勤王者調」中に含まれる割合はごく僅かであった。⁽⁴³⁾

最後に贈位の時期に関していえば、八八名のうち実に八〇名までが明治三十一年七月四日の措置であり、全国動向のうえでも、この日は

「特旨を以て、故従五位下唐橋土愛・同山内豊福の位階を追陞し（中略）又故高野長英外十一名に正四位を、故山内兵庫外三八名に従四位を贈る、外に正五位又は従五位を贈らるゝ者百十余名、共に維新前後国事に勤勞せる功を追賞」した、⁽⁴⁴⁾明治二十四年（一八九一）以来の贈位一斉処分にあたっていた。これらの一斉贈位を最終的に進めたのは、同年二月に同郷の土方久元の後を継いだ土佐派の中核といふべき宮内大臣・田中光顕である。⁽⁴⁵⁾同日の贈位者総数一七二名中の八〇名が高知県内申の遺漏者だったこととなり、彼の後押しによる措置実現が明らかであったのはいうまでもない。⁽⁴⁶⁾すなわち、このような経緯を経て、明治二十六年（一八九三）六月の内務省訓令による遺漏者への贈位は、五年後の同三十一年七月に至って実現したのである。それは、換言すれば明治三十一年七月の多数の贈位措置は、明治二十六年に内務省が求めた維新功勞者のうちの遺漏者を地域側が調査・選定した、叙上のごとき動向、つまり贈位遺漏者問題のひとつの結実であったともいえよう。

三 贈位遺漏者選定と地域間調整

前章でいささか触れたとおり、贈位遺漏者をめぐる問題においては、遺漏者を選定する過程で県レベルでの調整の動向が現れる。ここでは高知県と山口県との贈位遺漏者選定に関する相互の調整についてみることで、前章の贈位・叙位遺漏者問題を補完的に捉えたい。

地域が遺漏者について調査する中で生じた問題のひとつに、その事績の面から内務省へ内申を行うに際し、どの県から申請すべきかが問

われる人物が現れる例があった。表2でいえばNo.25の上田宗兎（のち後藤深造と改称）がこれにあたる。彼の履歴につき「勤王者調」は、

幕府失政国歩艱難の時ニ当り勤王の義を執り深く時事を慨し、慶応元年四月廿七日脱藩して長州ニ客となり精励大ニ勉む、巨瀬川の役憤闘銃丸其肘を貫く、後又中山侍従ニ属し大和の役血戦殊功あり軍敗るニ及ひ侍従を奉して又長州ニ入る、或ハ薩州ニ行き又京師ニ出等奔走頻リニ時事ニ励む、明治元年正月三日伏水の役長藩ニ属し遊撃隊長となつて力戦之れに死す

と記していた。⁽⁴⁷⁾ 上田は土佐勤王党参加ののち、文久二年（一八六二）に脱藩（慶応元年とあるのは誤記）、翌年に天誅組へ加わり駕家口の戦いで敗退後、長州へ走り元治元年（一八六四）の禁門の変また二度にわたる長州征討で長州藩の遊撃隊に加わり、慶応四年（一八六八）正月の鳥羽・伏見の戦いにて戦死した人物である。このような履歴からも端的に窺えるとおり、旧土佐藩・旧長州藩双方において活動したために、自ずと実績も高知・山口両県に伝えられることとなった。そこで高知県知事・石田英吉は贈位遺漏者について調査中の、明治二七年（一八九四）五月十六日に山口県知事・原保太郎へ向け左のような問合せを行っていた。⁽⁴⁸⁾

元ト高知藩士上田宗兎ハ夙ニ勤王ノ大義ヲ唱エ深ク時事ヲ慨シ、文久三年中山侍従ヲ奉シ大和之役血戦殊功アリ軍敗レテ長州ニ入り、後藤深造ト改称シ尔来各地ニ奔走シ巨瀬川之役憤闘創ヲ被リ、後長藩遊撃隊ニアリ、明治元年正月三日一隊長ヲ以テ伏水ノ役ニ戦死セシ者ニシテ功劳モ不少ト存候処、同人ハ生前既ニ長藩ノ士

籍ニ属シ居候趣ニ候へハ本県ヨリ調出候テハ重複之懸念モ有之、右ハ御県ニ於テ御調査相成居候哉、為念此段及問合せ也

高知県は調査の過程で上田宗兎が長州藩の士籍に属していたことを知り、このように問合せいたのである。この問合せを受け、山口県の知事官房は上田の取り扱いについて次のごとき認識を示していた。⁽⁴⁹⁾

維新功労者元高知藩後藤深造事跡取調之件ニ付、別紙高知県知事ヨリ照会有之候所、同人ハ高知藩之出身ニハ候得共、其後山口藩之士族ニ属シ其国事ニ尽力セシ功蹟等モ本県ニ而取調候方可然相

考候

つまり、「国事」に尽力した際の主な実績は長州藩に属し活動を行った時期にあり、そのため実績調査も山口県で行うべき、との考えが同県内では支配的であったことが窺える。事実、五月二五日付で山口県知事・原保太郎は高知県知事・石田英吉へ「元高知藩士後藤深造維新之際王事ニ尽力セシ事績取調之件ニ付、本月十八日付御照会之趣了承、右ハ当時同人等と相提携殉難之長藩士一同本県ニ於て取調具申之見込ニ有之候故、此段及御回答候也」との回答を寄せていた。⁽⁵⁰⁾ 山口県における調査は「高輪毛利家ヨリ回サレタル人名及各郡長ヨリノ内申」に基づき進められ、最終的に県で履歴の取り纏めがなされていたが、取調における対象範囲は、前章でみた高知県のそれとやや異なり、一、維新ノ際専ラ力ヲ王事ニ尽シ殉難死節若クハ病没シタルモノ二、国家ノ為メ私財ヲ擲チ軍備ニ供シ志士ヲ救助シ已ニ死没セシモノ

三、一項若クハ二項ニ該ルモノニシテ今尚生存セシモノ

として、靖国合祀者・戊辰戦争戦死者の規定がなく、「志士」の救助者の範囲が掲げられている点に特徴があった。⁵³⁾このうち上田宗兎の場合は、第一点目の対象範囲に含まれたはずである。実際、山口県でも遺漏者に関する履歴は、「維新功労者履歴」と称され計六冊に分冊のうえ纏められていたが、上田は改称後の後藤深造の名でその第一冊目に収載され、「正則等尤モ力メ」た天誅組での功や、「我藩ニ仕ヘ遊撃隊ニ入」った後の第二次長州征討における「戦尤力」めた功績に力点が置かれた履歴が綴られていた。⁵³⁾

高知県の「勤王者調」および山口県の「維新功労者履歴」双方にその履歴書が残されていることから、この後、結局は双方から内務省へ履歴が提出されたのではないかと推測されるが、管見の限り政府側の史料が残念ながら残されておらず、この点の詳細は詳らかではない。ただし、『贈位諸賢伝』においては上田（後藤深造として掲載）を高知藩士として記載している⁵⁴⁾し、後年に作成された贈位に関する高知・山口両県のそれぞれの史料には、例えば高知県編纂『高知県史要』中の「表彰・贈位」の項には彼の名がみえるが、侯爵毛利家記録科作成の「防長贈位人名表」中にはその名がみえず、⁵⁵⁾結果的に政府は出身藩である高知県（旧高知藩）での贈位認定措置をとったと考えられる。⁵⁷⁾上田に正五位が贈られたのは、明治三十一年の一斉贈位から遅れる四年後の、同三五年（一九〇二）十一月八日のことであった。明治末年にかけて断続的に維新の功労者への贈位が続くのは、右のような容易に事績調査が進展しなかった事例があり、継続的に宮内省で調査がなされ、措置が遅れたことによっているであろう。明治二十四以降の維新

「志士」への贈位をめぐる国家・地域の動向は、これまでみたような背景に基づき推移していたのである。

おわりに

維新からおよそ二十年を経て、その変革を振り返った際に生じたのが、新たな政治体制の構築に資した人物の功績、特に地域に遍在した「志士」の事績を、いかに顕彰してゆくのかという課題であった。これは国家にとっては立憲制の形成という政治的画期を始源に遡って正統化しつつ、国民に広くこれらの功績者を範として浸透させる意図があり、一方で地域にとっては国家の形成に資した人材輩出の主張、というそれぞれの用途が連動しながら事態が進展していたといえよう。

明治二五・二六年（一八九二・一八九三）、それまでの国家による「志士」顕彰の柱である、靖国合祀および贈位・叙位の措置漏れ、というべき遺漏者問題が生じる。靖国合祀については、明治八年の内務省達に基づく、明治十六・二十四年にかけての多量の「維新殉難者」への合祀処分の陰で、これから漏れた人物につき地域は国家へ事績の認定を求めて働きかけることとなった。しかし、ここには国家が容易に認定しがたい事績を抱えた人物が多く含まれており、国家側は明確にこれらの人物に関する顕彰行為を忌避ないし捨象してゆくのである。このような国家と地域の歴史意識をめぐる齟齬は、当然ながら双方の相克を伴いつつ、特に明治中期以降、さまざまな顕彰主体によって担われることとなる。それは、ときに藩閥政府の形成する維新の「殉

難者」をめぐる枠組みや価値基準への疑義を内包しながら、近代を通じて展開するはずである。そのような意味では、維新の「志士」顕彰をめぐる課題が当該期に改めて現出するのだといえる。

他方で、靖国合祀問題と連動した贈位・叙位遺漏者問題においては、地域側はより国家が実績認定を行ううえで有効な、「勤王」という文脈に沿った歴史像に基づく履歴を形づくり、それを政府へ提示していた⁽⁵⁸⁾。また、これらの遺漏者を選定してゆく過程で、維新において藩を越えて活動を行った者の実績が問題化され、地域間で履歴の編纂と政府への内申にあたって調整が行われるという動向が看取された。明治三一年以降、継続的に措置がなされる、維新功労者への贈位・叙位の前提と全体構造が解明され、また国家側が求める「勤王」や「勤王志士」像形成の様態の一端が、遺漏者問題をみることで明らかとなった。

あたかも、明治二五・二六年という時期は、第一議會を乗り切ったのち、第二回総選挙での政府による選挙干渉をめぐる「民党」との相克を伴う、地域によっては多数の死者を出すほどの政治的混迷期にあたっており、一面ではこのような政治状況を安定化させようとする志向性と遺漏者問題は連関する可能性がある。明治十年代の不平士族・民権運動への懐柔施策のひとつとして、維新の「志士」らへの旧功の認定と褒章が政府によって着手されたことは、すでに前稿で解析した⁽⁶⁰⁾。内乱あるいは非常な危機に際し、常に「維新」の記憶が想起される、近代日本の歴史意識の動態とその位相が、現在、次第に明瞭になりつつある。

〔注〕

- (1) これと同様の表現として「嘉永癸丑」「癸丑甲寅」以来などという、元号と干支によって表される言葉は、後述する靖国合祀処分関係の文書や高知県編纂「勤王者調」中の「志士」らの履歴にもしばしばみられ、「維新」変革の始点を指す表現として広く社会に浸透していたといえる。
- (2) 『法令全書』第八卷―2（原書房 一九七五）八九一頁。
- (3) 拙稿「国家と地域の歴史意識形成過程―維新殉難者顕彰をめぐる―」（『歴史学研究』第八六五号 二〇一〇）。
- (4) 羽賀祥二『明治維新と宗教』（筑摩書房 一九九四）三五五頁。
- (5) 宮内庁編『明治天皇紀』第七（吉川弘文館 一九七二）七八七頁。
- (6) 明治二六年の靖国合祀処分については、秦郁彦『靖国神社の祭神たち』（新潮社 二〇一〇）四九―五一頁が詳しいが、これと連動する贈位・叙位遺漏者問題には触れられておらず、維新をめぐる歴史意識形成という視角からこの問題を総体的に捉えなければならぬと考える。
- (7) 国立公文書館所蔵「贈位内申書」（012A040006 贈位00206100）および高知県立図書館所蔵「皆山集」第十二・十五号。
- (8) 「宮内書記官へ照会案」（『公文録』公02971100）。
- (9) 「招魂社内江合祭ノ儀願」（『公文録』公02971100）。
- (10) 「殉難諸士招魂社へ合祀之儀ニ付伺」（『公文録』公02971100）。
- (11) 「公文録」（公02971100）。
- (12) 同右。
- (13) 「陸軍省 海軍省へ達」「高知県へ達」（『太政類典』太00805100）。
- (14) 『靖国神社忠魂史』（靖国神社社務所 一九三三）第五卷所収、「合祀記事」四六頁。
- (15) 「公文録」（公02971100）。
- (16) 防衛省防衛研究所蔵「陸軍省雑文書 兵部省陸軍省雑」（陸軍省―

雑—M 21—17—109。

- (17) 合祀者の総数については、前掲『靖国神社の祭神たち』四七頁を参照。
(18) 「殉難者合祀之作」(防衛省防衛研究所蔵「明治二六年十月 壹大日記」陸軍省—壹大日記—M 26—10—12)。
(19) 「靖国神社へ合祀之義ニ付上申」(前掲「明治二六年十月 壹大日記」陸軍省—壹大日記—M 26—10—12)。
(20) 「泉州堺事件ニ関スル歎願書」(前掲「明治二六年十月 壹大日記」陸軍省—壹大日記—M 26—10—12)。
(21) 明治二五年二月、土居盛義は帰高した谷の屋敷を訪い、堺事件「殉難者」の靖国合祀請願を熱望する件を申し入れ、これに賛同した谷は九月に自ら嘆願書の文案を作成したという(高知県立図書館所蔵『土居盛義翁実伝』 自費出版 一九〇四 二二頁)。
(22) 前掲「明治二六年十月 壹大日記」(陸軍省—壹大日記—M 26—10—12)。
(23) 同右。
(24) 例えば、文久二年(一八六二)十二月のいわゆる御殿山英国公使館焼討事件における長州藩の加担者では、高杉晋作・久坂玄瑞・有吉熊次郎が明治二年(一八八八)四月に靖国合祀、同二四年(一八九一)に贈位措置を受けており、また、井上馨や伊藤博文もこの事件の加担者であった。
(25) 田中は「贈位の奏請といふことは(中略)よほどよく調べた上でせぬと、とんでもない間違ひを生ずることがある」としたうえで本間の例をあげ、彼は「幕府の間諜であつてそれにはまぎれもない証拠があがつて」おり「事もあろうに勤皇の故をもつて贈位になるなどは、あまりにもおかしいことである(中略)全く不愉快極まる」(田中直樹編『憂国遺言』 鱗書房 一九四〇 八九〜九〇頁)と嫌悪感ないし不満を爆発させていた。この点の詳細は、拙稿「田中光顯と「志士」顯彰—維新史料論との架橋—」(『土佐史談』第二四五号 二〇一〇)を参照。
(26) 「殉難者合祀之作」(前掲「明治二六年十月 壹大日記」陸軍省—壹

大日記—M 26—10—12)。

- (27) 『靖国神社忠魂史』(靖国神社社務所 一九三三) 第五卷所収、「合祀祭祀事」四八頁。
(28) 「泉州堺事件ニ関スル歎願書」(前掲「明治二六年十月 壹大日記」陸軍省—壹大日記—M 26—10—12)。
(29) 山口県公文書館所蔵「維新功労者調関係書綴」(県庁文書—戦前A総務—410) および後述する、高知大学総合情報センター所蔵の高知県庁編纂「勤王者調」一所収の訓令(内務大臣官房内第四九一号)によった。なお、この「勤王者調」の第一冊目には「志士」の履歴を綴る冒頭部分に、これらの編纂に纏わる複数の行政文書が編綴されている。
(30) 前掲「維新功労者調関係書綴」(県庁文書—戦前A総務—410) および「勤王者調」一所収、内務大臣秘書官通牒(内務大臣官房内第五六七号)によった。
(31) 前掲「勤王者調」一所収、知事より郡市長あて訓令(高知県訓令乙第三十五号)。
(32) 前掲「勤王者調」一所収、高知県内務部長・野尻邦基より各郡市長あて内牒(発甲一三〇九号)。
(33) 本史料の所在について、佐川町立青山文庫名誉館長・松岡司様よりご教示を賜った。
(34) 前掲「勤王者調」一所収、高知県知事より鹿児島県知事・山口県知事あて問合わせおよび前掲「維新功労者調関係書綴」(県庁文書—戦前A総務—410) 所収の山口県知事あて問合せによった。
(35) 前掲「勤王者調」一所収、山口県知事・原保太郎より高知県知事・石田英吉あて回答(九月二日付) および鹿児島県知事・大迫貞清より高知県知事・石田英吉あて回答(九月四日付)。
(36) 明治十六年の八〇名・明治二年の一名の合祀者については、紙幅の都合で全ての人名を掲げることができないため、前掲注3拙稿所収の表3を併せて参照されたい。明治二二年合祀の五名については、本稿第一章で触れた。

- (37) この点についても、前掲注3拙稿所収の表3参照。
- (38) なお、事績中に単に招魂社合祭あるいは合祀とみえる場合、高知県の大島岬神社（のち改称され高知県護国神社）への合祀を指すと考えられる。
- (39) 前掲「勤王者調」五所収、「勤王者事歴ニ付上申ノ件」。
- (40) 第一章でみた、明治十四年四月二十九日付宮内省より内閣書記官あて回答（「公文録」公02971100）を参照。
- (41) 前掲注3拙稿を参照。
- (42) 一例ではあるが、大正六年（一九一七）十一月八日に落成した池知退蔵の記念碑建碑奉告祭を伝える『土佐史壇』第三（土佐史談会一九一八）によれば、「今上陛下御即位に際し従五位を追贈された維新の勤王家」とされており、大正天皇の即位大礼に伴う贈位であつたことが窺える。
- (43) 少なくとも、「勤王者調」に含まれる履歴の事績中でこれらの活動が判然とするのは、岩田正彦・川原塚茂太郎・安岡権馬・田辺家勝・堀内安春・大石円・片岡健吉・土岐真金の八名である。
- (44) 宮内庁編『明治天皇紀』第九（吉川弘文館 一九七三）四六六頁。例えば、最近、吉田信也氏・谷川稜氏によって紹介された明治三一年（一八九八）五月一九日付杉浦重剛あて田中光頭書簡によれば「陳は旧膳所藩士贈位之事ニ関シ、暫時得拜晤度候間、明廿日午前八時頃一番町官舎へ御枉駕被下度御願申上候」（杉浦重剛宛書簡―肥前国高来郡南串山村庄屋馬場家文書より）『史料』第九四巻第四号 二〇一と、七月四日に向け諸藩の「志士」への贈位措置の準備が宮内大臣の田中によって進められていたことがわかる。
- (46) 田中による旧土佐藩出身「志士」への贈位を通じた顕彰活動については、拙稿「維新の記憶と「勤王志士」の創出―田中光頭の顕彰活動を中心に―」（『ヒストリア』第二〇四号 二〇〇七）を参照。
- (47) 前掲「勤王者調」四ノ二所収、上田宗児履歴。
- (48) 前掲「維新功労者調関係書綴」（県庁文書―戦前A総務―410）。
- (49) 同右。なお引用箇所は、知事官房による高知県知事への回答案作成時の文書である。
- (50) 前掲「勤王者調」四ノ二所収、上田宗児履歴の追記部分に当回答が掲載されている。
- (51) 山口県公文書館所蔵「維新功労者履歴」第六（毛利家文庫―73藩臣履歴70）。なお、山口県には県―郡市・毛利家における贈位遺漏者の調査関係史料が比較的良好に残されており、高知県よりも一層、地域での調査の実態が明らかになる可能性がある。後考を期したい。同右。
- (52) 前掲「維新功労者履歴」第一（毛利家文庫―73藩臣履歴70）。
- (53) 田尻佐編『贈位諸賢伝』上（近藤出版社 増補版 一九七五）目次三七頁および四七一頁参照。
- (54) 高知県編『高知県史要』（高知県 一九二四）六三八頁。
- (55) 山口県公文書館所蔵「防長贈位人名表」（毛利家文庫―9諸省443）。ちなみに、上田宗児の例と同様、出身旧藩以外の県からの内申という点では、「勤王者調」中の坂本龍馬の従者として知られる藤吉（No.86）と天誅組を支援した山崎久三郎（No.304）の名がみえ、これらも滋賀県や京都府と調整がなされていた可能性を指摘できよう。
- (56) 従来、「勤王者調」や「維新功労者履歴」は明治維新における「志士」の事績を現在に伝える史料として、例えば『明治維新人名辞典』（吉川弘文館 一九八一）などでしばしば参考文献として引用されてきたが、本稿で明らかにしたような編纂過程や元来の編纂意図、そして明治二十年代の歴史意識というものを十分に踏まえ、個々の履歴を分析したうえでの史料引用がこれから求められるはずである。
- (58) 特に高知県においては、干渉を行った者とこれに抗した者の双方による暴動で九名にのぼる死者を出していた。
- (59) 前掲注3拙稿を参照。
- (60) （たかた ゆうすけ 非常勤講師）